

いまどき30代夫の家事参加の実態と意識

～25年間の調査を踏まえて～



調査報告書



旭化成ホームズ株式会社
くらしノベーション研究所
共働き家族研究所

目次

第1章 社会背景と調査概要

1-1	はじめに	6
1-2	社会背景	7
1-3	調査概要	9
コラム	「いまどき」夫は、家庭科の申し子	10

第2章 共働き夫婦 いま・むかし

2-1	夫も家事をするのが「いまどき」	12
2-2	夫の育児、遊び相手にとどまらず	16
2-3	働く妻を応援する夫	20
コラム	電気掃除機の変遷と進化する機能・デザイン	23
コラム	洗濯と関連機器の進化	24
コラム	「イクメン」登場と育児グッズの進化	25

第3章 夫・妻のタイプ分析

3-1	夫・3タイプの分類とその特徴	28
3-2	妻・3タイプの分類とその特徴	32
3-3	夫・3タイプの詳細（3世代比較）	36
3-4	妻・3タイプの詳細（3世代比較）	42
コラム	「チョイカジパパ」×「ゼンリョクママ」はハッピーカップル!?	48
コラム	活況を呈す惣菜売り場	49

第4章：DEWKS向けの新しい住まいの提案

4-1	30代夫が抱える家事に対する3つの問題点	52
4-2	意識レベルの問題点	53
4-3	経験レベルの問題点	54
4-4	住宅レベルの問題点	57
4-5	マルチアイランドキッチン	58
4-6	ランドリーサンルーム	62
4-7	デイリークローゼット	66
4-8	プロトタイププラン	68

付録

1	入居宅事例集：いまどきDEWKSに迫る	73
2	コネタ集：親・時間・子ども	79

第1章

社会背景と調査概要



1-1 はじめに

1989年に共働き家族研究所を発足して、四半世紀が経とうとしています。

当時、共働き家族は先進的家族で、その住まい方研究によって、将来の家族像、すまいのあり方を探るのが目的でした。それが、今や30代新築購入層の2件に1件が共働き家族となりました。たぶん、多くの方が問われることでしょう。25年も経った今、共働き家族のくらしとすまいに着目する意味は何なのかと。

なぜなら、親と子・夫婦・個人のありかた、くらしかたへの変革がまさに「今」起きている事をお伝えしたかったからです。そう確信した背景には、当該世代は、25年前の共働き家族の子供世代、つまり、共働き家族第二世代であること、一般企業で育休取得が事実上可能となった第一世代であること、更に、家庭科の男女共修世代であることが挙げられます。これらをベースに、次世代家族のありよう、住まいのスタンダードとは何か、今後継続的に様々な切り口で調査研究・情報発信していく予定です。

まず、第一報をご報告させていただきます。

平成26年7月

共働き家族研究所 所長 入澤 敦子

■ 研究活動の軌跡

- 1988 異業種合同の共働き家族研究会発足
- 1989 旭化成共働き家族研究所 開設
機関紙『DEWKSネット』創刊⇒10年間で50号発行
共働き家族向け住宅『DEWKS』提案
- 1992 共働き家族向け住宅『DEWKS II』発売
- ～96 共働き家族の家事・コミュニケーション等に関する調査を実施
- 2008 家族の生活時間 そのリズムとバランス調査発表
子育て家族向け住宅 +NEST 発売
- 2011 ママ社員モニターによる調査活動開始
- 2012 子育て賃貸『母力』発売
社員モニター活動・パパモニターの拡充



■ 89年
DEWKS発売



■ 89年
共働き家族・
専業主婦家族
比較調査

共働き家族

調査報告書

家族の生活時間～そのバランスとリズム～
家計費の分担からみた「男女均等時代の夫婦関係」比較調査
家事のゆくえ ～外部サービスの利用と家庭処理の比較を通して～
母親からみた子どもの家事協力
DEWKS時代の「男の鑑別法」「家事をする男」と「家事をしない男」比較調査
共働き家族における親効果 ～親世帯との居住距離による比較～
家族コミュニケーションの状況とそのあり方 ～共働き家族と専業主婦家族の比較をまじえて
DEWKSの仕事と子育て観
DEWKSの暮らしについての調査
東京・ニューヨーク・ロンドン「共働き家族の生活」比較調査
共働き家族の時代を考える「共働き家族・専業主婦家族」比較調査

共働き家族研究所(1989～)

2009 子育て世代を支援する生活提案「+NEST」(2009)
1996
1995
1994
1993
1991
1991 ヘーベルハウス「DEWKS II」(1992)
1991
1990
1990
1989 共働き家族向け住宅 ヘーベルハウス「DEWKS」(1989)

情報発信

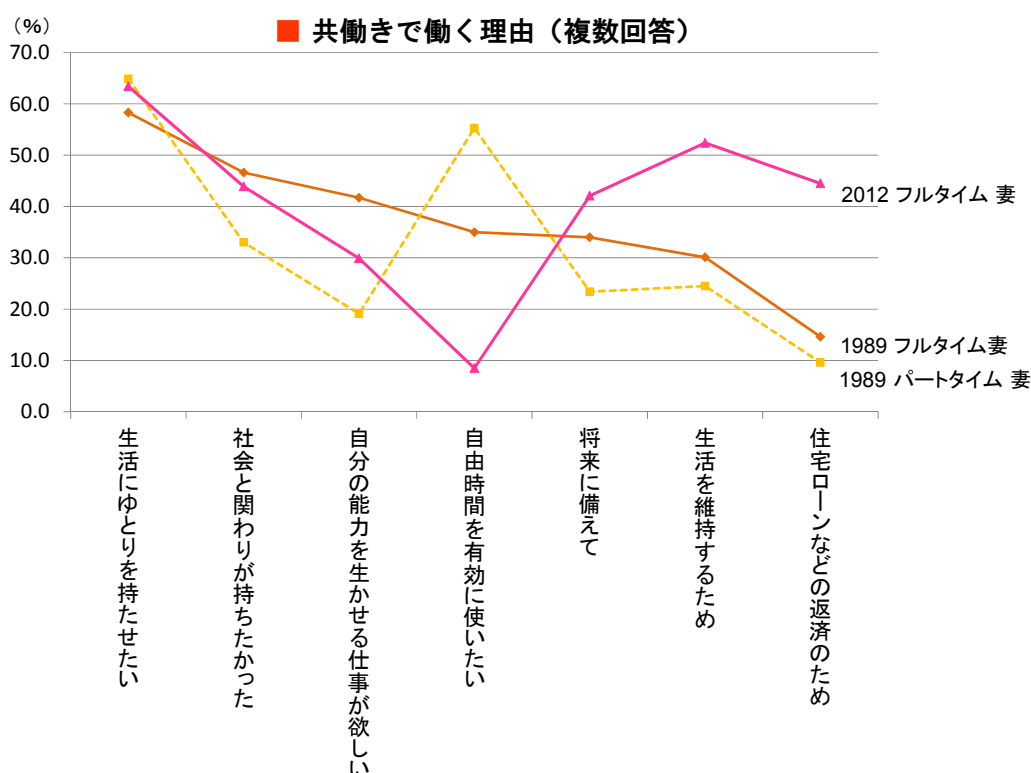
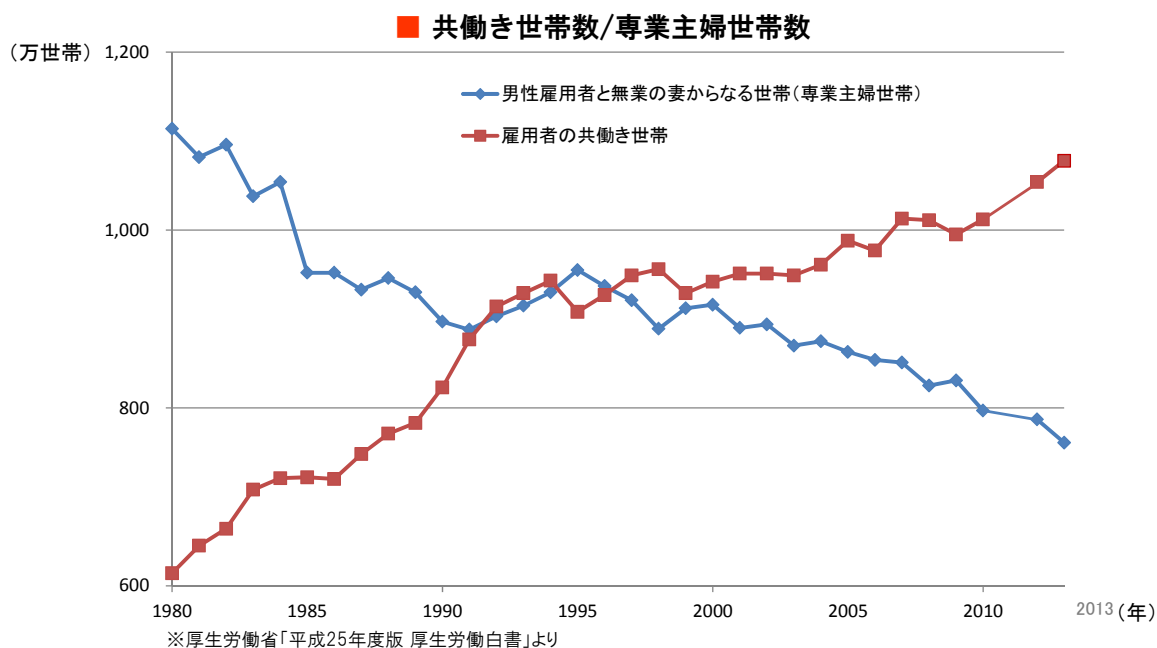
共働き家族研究所発行「DEWKSnet」創刊号～第50号

1989-99

1-2 社会背景

1990年代に共働き世帯数は専業主婦世帯と拮抗するようになり、2000年代に入ると、共働き世帯数が専業主婦世帯数を上回り、その差は年々開いていますが、2010年代になってその傾向がより強くなっています。

共働きで働く理由を見ると、かつては「生活のゆとり」や「社会との関わりを持ちたい」という理由が目立ちましたが、今はそれに加えて「生活を維持するため」や「住宅ローンなどの返済のため」といった経済的な理由を挙げる人が増加しました。つまり、夫婦で経済的な安定を目指す時代になっていきます。



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所:1989年「共働き家族・専業主婦家族 比較調査」2012年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

1993年に中学、94年に高校で家庭科が男女共修となり、ちょうど20年が経ちました。

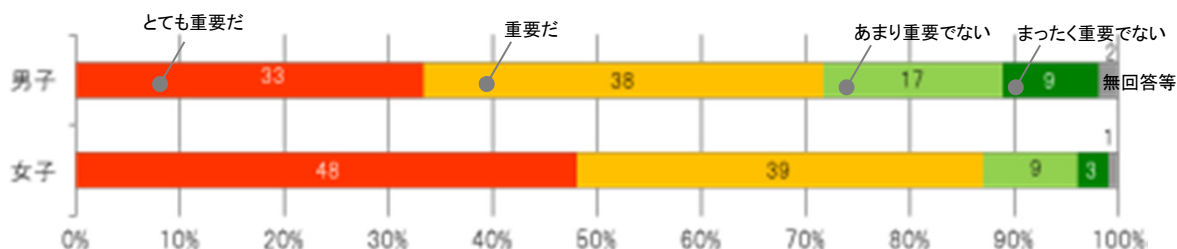
それまでの中高生は、男子が技術、女子が家庭科を別々に学んでいましたが、現在では、子育てや介護体験、日本の伝統文化などを家庭科を通して学んでいます。

国立教育政策研究所の調査によると、高校3年生の男子生徒の7割が「家庭科は将来生きていく上で重要」と答えています。これは、男女共修となったこの20年で家庭科が浸透してきたこと、また社会の中での男女の役割意識が従来のように固定的には捉えられなくなったことの表れでしょう。

1994年に中学生・高校生だった人は、ちょうど今30代を迎えています。男女共修時代の家庭科教育を受け、家事や育児に抵抗のない世代が今、新築住宅の購買層となっています。

■将来生きていく上で重要な学習—高校3年生※

家庭（家族・育児・家庭・衣食住全般）[大学志願9割以上] 抜粋



※国立教育政策研究所「理系文系進路選択に関わる意識調査」(2012年10月)より

1-3 調査概要

調査目的

本調査は、1989年研究所発足以来の研究成果を踏まえ、いまだき30代の夫婦での家事・育児シェアの実態と意識を明らかにすることを目的としています。

そのために、以下の2つの視点を重視し、2012～2014年に3回のアンケート調査を実施しました。

①25年の比較:過去の共働き家族研究所調査データとの比較

(夫の家事・育児の関与度、仕事に対する意識など)

②いまだき世代の夫婦像と意識差:ポスト団塊ジュニア世代に注目し、家事・育児の関与度や家事のやり方から夫と妻のタイプ分けを行う

調査概要

■ 1989年調査「共働き家族・専業主婦家族 比較調査」

◇定量調査 調査時期:1989年3月
調査方法:留置調査法(配布後、郵送で回収)
調査対象:主婦(フルタイム就労、パートタイム就労、専業)とその夫 347世帯
25歳～50代の男女 (電話帳より、ランダムに5000世帯を抽出して対象を選定)

■ 1991年調査「DEWKSの仕事と子育て観」

◇定量調査 調査時期:1991年1月
調査方法:郵送法
調査対象:フルタイムで子どものいる共働き家族
20代～50代の男女 1223人

■ 2012～14年調査「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

◇定量調査① 調査時期:2012年12月
調査方法:インターネット調査
調査対象:フルタイム共働き家族または専業主婦家族
30～45歳の男女 702名 (ヘーベルハウス居住者、一般モニター)

◇定量調査② 調査時期:2013年7月
調査方法:インターネット調査
調査対象:定量調査①の回答者 480名

◇定量調査③ 調査時期:2014年3月
調査方法:インターネット調査
調査対象:フルタイム共働き家族または専業主婦家族
30～69歳の男女 999名 (一般モニター)

「いまどき」夫は、家庭科の申し子

「家庭での生活に必要な見解・知識・技能」を学ぶ「家庭科」。小学校では戦後すぐの1947年から男女ともに学びましたが、中学・高校で男女がともに学ぶようになったのは中学では1993年から、高校では1994年からと最近のことです。その背景には、女性の社会進出とともに男性も家庭生活に関する技能を身につけることが求められるようになったことがあるでしょう。

中学、高校の家庭科では、従来からある食生活、衣生活、住生活などで調理、衣服の手入れ、住居の手入れや住まい方などを学ぶほか、「生きる力」を掲げた新学習指導要領では、「家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、男女が相互に協力して家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させることができるように内容の充実を図った」とあり、家事

や育児に男女ともに関わることを目指す内容となっています。

1994年に中学生、高校生だった人はちょうど今、30代。家庭科教育を受け、家事や育児に抵抗のない世代の男性が今、父親となり、カジメンやイクメンになっているのではないのでしょうか。

持続可能な社会を築くために女性が社会に出て働き、働きながら子どもを産み育てることが求められています。その実現には、カジメン・イクメンの存在は不可欠であり、こうした意味でも家庭科教育の果たす役割は大きいといえます。

また、理系教育の必要性が叫ばれる昨今。算数や理科といった基礎的な科目は重要である反面、子ども達の興味が薄れてしまいがちです。それらの内容を実生活に結びつけ学びの意欲を引き出す役目も「技術・家庭」が担っていけることでしょう。

※ 参考：文部科学省 学習指導要領、wikipedia「家庭（教科）」

■参考：高校家庭総合教科書目次(大修館)

第1章 人生をみつめる

1. 人生を展望しよう
2. 家族・過程を見つめよう
3. 家庭生活と社会について考えよう

第2章 子どもを育てる

1. 子どもの成長・発達について知ろう
2. 子どもの生活について知ろう
3. 子どもの人権と福祉について考えよう

第3章 高齢期を生きる

1. 高齢者の生活をみつめよう
2. 高齢者の福祉について考えよう
3. 高齢者とともに生きる社会をめざして

第4章 共生社会の一員として生きる

1. 共生社会について考えよう
2. 地域社会で活動しよう

第5章 経済生活を主体的につくる

1. 家庭の経済生活をみつめてみよう
2. 消費生活と意思決定について考えよう
3. 消費者の権利と責任について調べよう

第6章 食生活をつくる

1. 食生活をみつめよう
2. 健康な食生活をつくらう
3. 安全な食環境を考えよう
4. 食文化を考えよう
5. 食事をつくらう
6. これからの食生活を考えよう

第7章 衣生活をつくる

1. 衣生活をみつめよう
2. 健康で個性的な衣生活をつくらう
3. つくる技術を身につけよう
4. これからの衣生活を考えよう

第8章 住生活をつくる

1. 住生活をみつめよう
2. 健康で安全な住生活をつくらう
3. 家族の生活と住空間を考えよう
4. これからの住生活を考えよう

第9章 持続可能な社会をつくる

1. 環境と調和のとれた生活をつくらう
2. 持続可能な社会をつくるライフスタイルを築こう

第10章 生活をデザインする

1. ライフプランを考えよう
2. 問題を解決してよりよい生活をつくらう



第2章

共働き夫婦 いま・むかし



2-1 夫も家事をするのが「いまどき」

共働き家族・専業主婦家族の25年前(1989年)と現在(2012年)を比較したところ、最も変わったのは、夫です。25年前に比べ、全体的に夫で家事をする人が増えましたが、中でもフルタイム共働き家族の夫は、調理・洗濯・掃除のどの分野でも、平日も家事をしていることが分かりました。彼らは、かつてのような妻に頼まれてやるような受け身の「家事参加」というではなく、自ら積極的に臨む「家事関与」です。その背景には、楽しみながら、かつ家事をする父親の姿が子どもの良い影響を与えるという意識があり、夫自身が家事を前向きに捉えているからだと考えられます。

家事頑張る夫、妻の思いは「もっと！」

20年間で夫の家事・育児への参加意識は大きく変化しました。

グラフによると「夫も家事を分担するほうがよい」と回答する夫が、1988年には38.0%だったものが2008年には73.2%となっており、20年間で35.2ポイント増と2倍近くまで上昇しました。

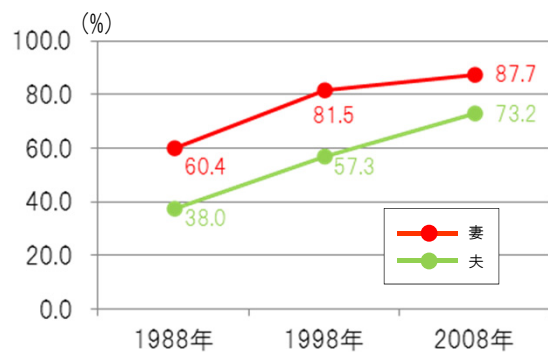
しかし、その一方、妻の値をみると常に夫を上回る数値となっています。

表によると、「ふとんの上げ下ろし」以外の全ての項目でプラス(+)となっており、夫の家事への参加率は高まっているといえます。

夫の頑張りは分かるものの、妻からすれば「もっとやって欲しい」というのが本音のようです。※

■夫の家事への参加意識※

夫も家事を分担する方が良いと思う



■夫の家事への参加（20年の変化）※

「ご主人様はどの程度参加していらっしゃいますか」
(よくある・時々ある の小計)

	1988	1998	2008	20年変化
家の戸締り	43.2	52.4	65.6	+22.4
年末の大掃除	49.2	48.7	53.8	+5.6
食料品の買い物	30.3	40.4	48.1	+17.8
ごみ出し	19.7	29.3	38.5	+18.8
風呂場の掃除	14.4	25.3	32.5	+18.1
食事の後片付け	11.9	18.6	27.9	+16.0
布団の上げ下ろし	27.6	30.2	26.8	-0.8
部屋の掃除	15.2	18.1	23.0	+7.8
食事のしたく	13.4	18.1	22.8	+9.4
町内会などへの出席	15.2	15.0	18.1	+2.9
布団干し	16.3	15.0	17.6	+1.3
洗濯	7.9	8.2	14.0	+6.1

夫の調理への参加は、フルタイム共働き家族、専業主婦家族ともに増加しているといえます。

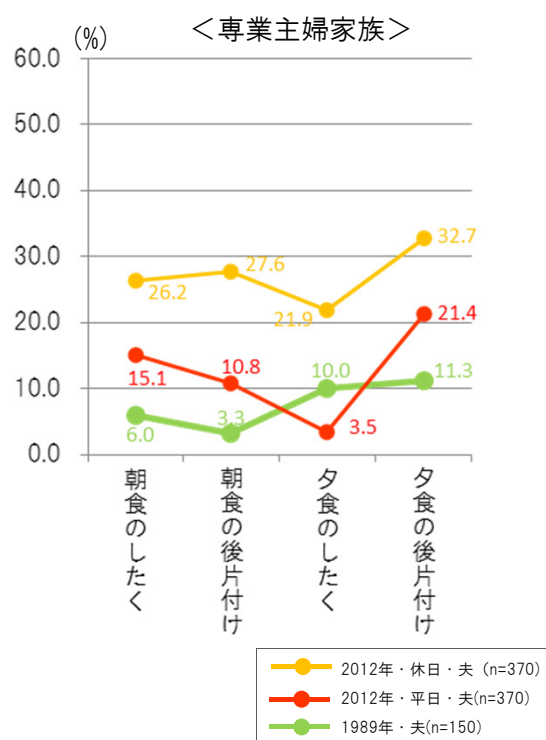
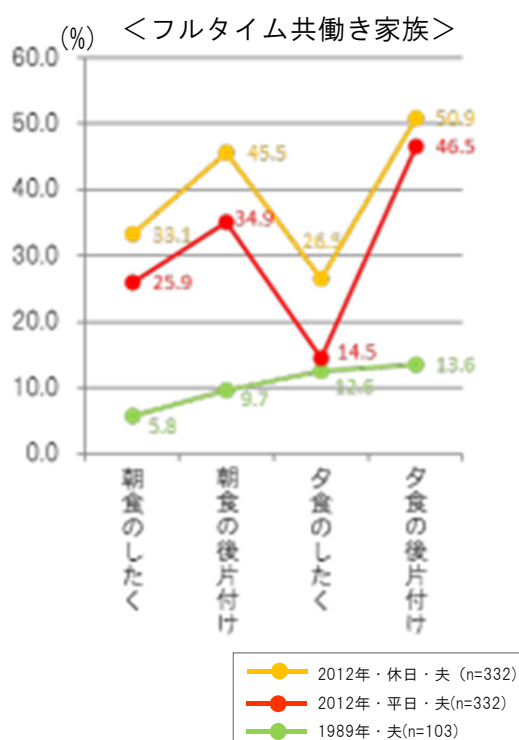
特に、朝食、夕食ともに、「後片付け」への参加がフルタイム家族では平日、休日ともに約50%と高くなっています。

また、注目なのは「朝食のしたく」。フルタイム共働き家族では、1989年には5.8%だったものが2012年には平日でも25.9%に増えています。忙しい朝は猫の手も借りたいところ。夕食の支度には帰宅が間に合わない男性も、メニューが手軽なこともあり朝食の支度には参加しやすいのではないのでしょうか。

なお、フルタイム共働き家族の場合、働き盛りの夫が夕食のしたくを平日にするのは厳しいですが、休日には4人に1人がしています。週末の家族の楽しみとして、夫の手料理を楽しみにしている妻や子どもの話が、フリーアンサーでも多数みられます。



■夫の家事・育児への関与（調理）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：1989年「共働き家族・専業主婦家族 比較調査」 2012年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

洗濯

「干す」「たたむ」も夫の役目

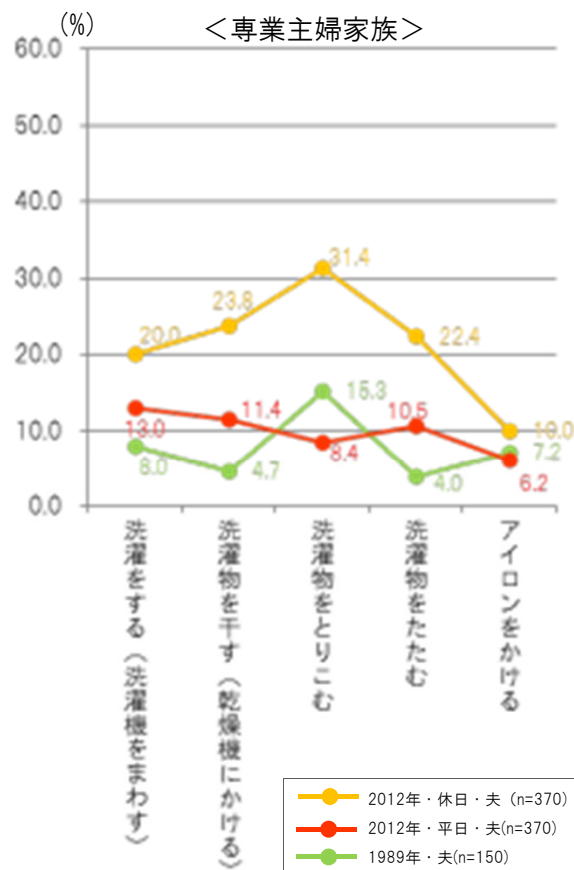
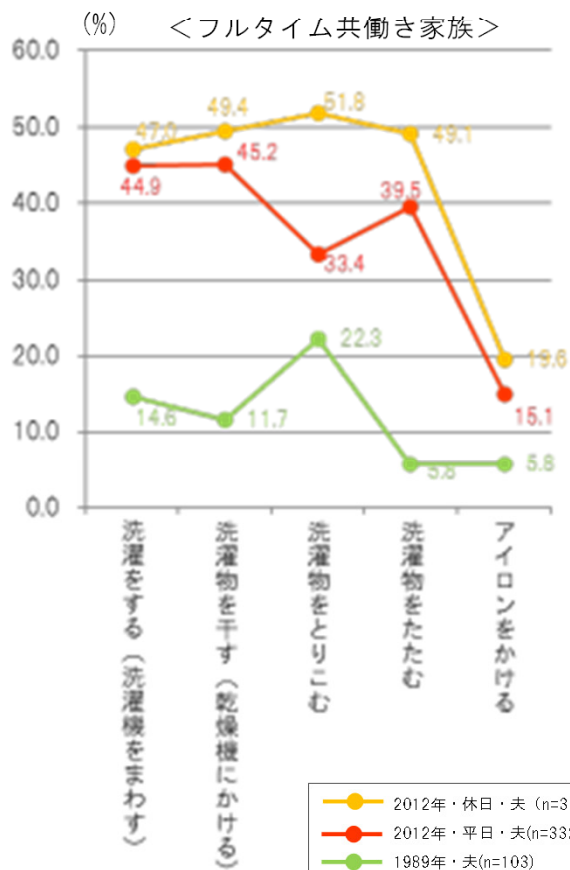
約20年の間に、フルタイム共働き家族では洗濯をする夫が大幅に増えたことが分かります。1989年と2012年の平日を比べると「洗濯をする」「洗濯を干す」「洗濯物をたたむ」のいずれの項目でも約30ポイントの増加となっています。

その背景として、女性の下着を男性が干すことに対する抵抗感が減ったことが考えられます。フルタイム家族では、外干しをすると昼間に洗濯物を取り込むことができないため、必然的に室内干しに。その結果、ご近所の目を気にする必要もなくなり夫が参加しやすくなったのではないのでしょうか。

また、「アイロンをかける」は、フルタイム共働き家族、専業主婦家族ともに、25年前と変わらない数値ですが、これはそもそもノーアイロンのシャツの普及の影響で、現在アイロンがけ自体が行われなくなっているからだと考えられます。



■夫の家事・育児への関与（洗濯）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：1989年「共働き家族・専業主婦家族 比較調査」 2012年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

掃除

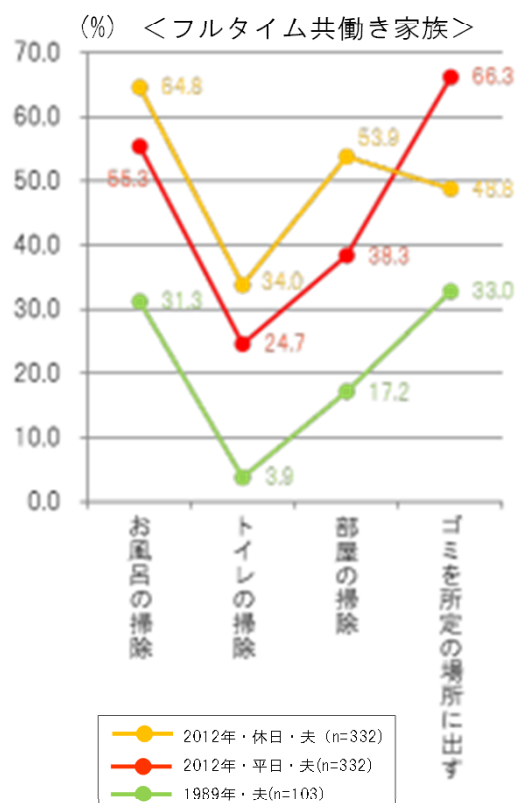
「ゴミ出し」はキホンのキ？！

2012年の調査では「ゴミを所定の場所に出す」は、フルタイム共働き家族では平日66.3%、休日48.8%、専業主婦家族では平日49.2%、休日38.4%といずれもポイントが高く、夫の家事参加の基本ともいえそうです。家族が多くなればなるほど、ゴミはそれなりに重くなり、力仕事です。そこで、夫の出番となるわけです。

一方、「部屋の掃除」はフルタイム共働き家族、専業主婦家族のどちらも休日の方がポイントが高く、休日参加型の家事といえそうです。



■夫の家事・育児への関与（掃除）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：1989年「共働き家族・専業主婦家族 比較調査」 2012年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

2-2 夫の育児、遊び相手にとどまらず

この25年で、夫の育児の内容にも変化が見られます。

すなわち、昔は「大変な育児」（保育園の送り迎え、子どもが病気になった時に仕事を休むなど）まで担う夫は、フルタイム共働きであっても少数派でしたが、今はそこへの夫の関与が進んでいることから、ここに現代の新たな夫婦像が見えてきます。

また、昔も今も「楽しい育児」（「子どもの遊び相手になる」「子どもをお風呂に入れる」など）に関わる夫が多いですが、さらに「おむつを替える」「寝かしつける」をする夫も増え、夫の育児をする範囲は拡大しています。従って、「イクメン」が一時のブームではなく、定着していることがデータから読み取れ、意識面・実態面ともに子どもとの関わりを大事にしている様子が浮かび上がっています。

育児 大変な育児も担う妻がフルタイムで働く夫

25年前と現在の夫では、育児への関わり方がどのように変わってきているのでしょうか。

最も変わったのは、子どもが「急病になった時」や「父母会や授業参観の時」などのように、仕事を休まなければならないような育児です。

25年は「主に妻が休む」場合が大半で（6～7割）、

「夫婦交代で休む」は少なく（2割弱）、となっており、仕事を調整してまでの育児に関わる夫は極めて少なかったことが分かります。

従って、昔はほとんど妻だけが仕事を調整・犠牲に育児をして、子どもの急病や授業参観などの学校行事に出ていたと言えます。

■育児でしていること（複数回答）その1※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：1991年「DEWKSの仕事と子育て観」

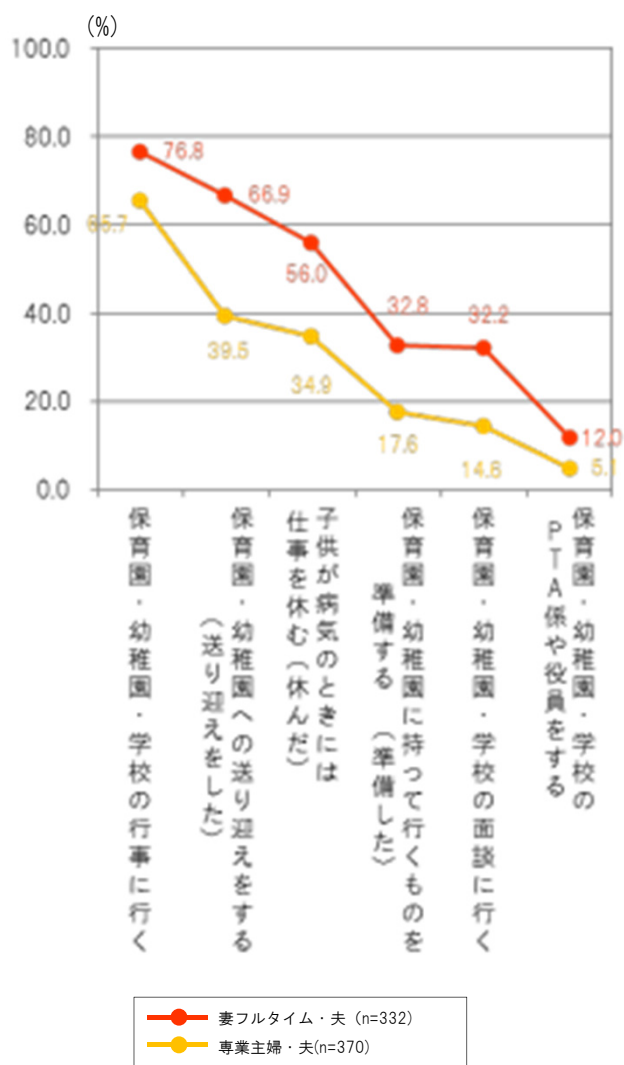
ところが、2012年の妻がフルタイムで働く夫になると「保育園・幼稚園・学校への送り迎えをする」は7割近く、「子どもが病気のときには仕事を休む」は6割近く、「保育園・幼稚園・学校の面談に行く」でも3割以上が実行しています。

25年前とくらべ、いまだきの共働き家族の夫は、楽しく関われる育児だけでなく、午前休や午後休あるいは有給を使うなど、仕事の調整が必要となるような育児にも関わり家族の生活を支えているといえます。

このようなことから、妻だけでなく夫も一緒に幅広く育児に関わる、現代の夫婦像が見えてきます。



■育児でしていること（複数回答）その2※



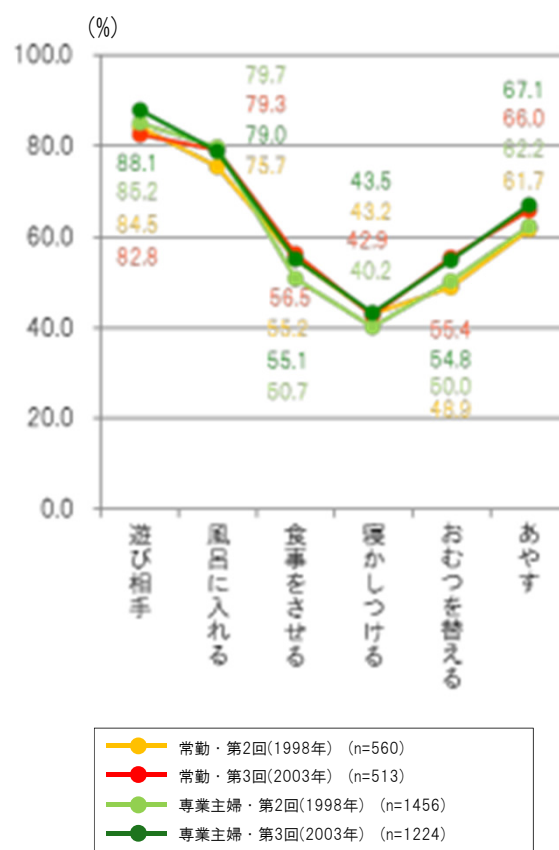
「遊び相手」と「お風呂」は夫の役目

全国家庭動向調査によると、夫の育児は第2回(1998年)にくらべ第3回(2003年)で遂行率が高まっているといえます。

「遊び相手」のポイントは、妻の就業形態によらず80%を超えて高くなっていますが、次にポイントが高いのが、「風呂に入れる」となっており、特に妻がフルタイムで働いている(常勤)の場合、「風呂に入れる」の項目で第3回(2003年)79.3%で過半数の家庭で夫が担当している育児といえます。



■夫の育児遂行（妻の就業形態別）※



※国立社会保障・人口問題研究所 全国家庭動向調査 第3回 2003年

現在の未就学児を抱えた家族は、おむつ替えや寝かしつけも当たり前

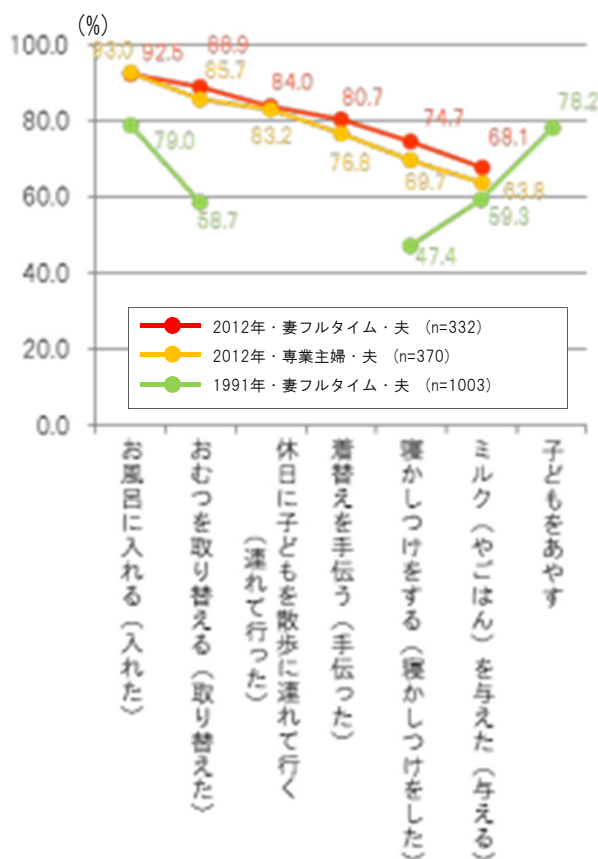
25年前と現在の夫では、育児への関わり方として、増加しているのは「おむつを取り替える」「寝かしつけをする」です。

妻がフルタイムで働く夫を見ると、「おむつを取り替える」は58.7%ですが、2012年では88.9%に増えています。また、「寝かしつけをする」も、25年前は47.4%と半数程度に留まっていますが、2012年では74.7%になっており、寝かしつけをしている夫が確実に増えています。

1991年調査も、回答者の多くは末子が未就学児のライフステージであり、2012年調査回答者のライフステージと共通ですが、まだまだ夫の育児関与は部分的な時代であったことが分かります。

なお、1991年調査では「着替えを手伝う」という項目はありませんでしたが、上記のようなライフステージの違いから、既に親の手を離れているので、妻がフルタイムで働く夫が関わることはなかったと推察されます。

■育児でしていること（複数回答）その3※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：1991年「DEWKSの仕事と子育て観」 2012年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

2-3 働く妻を応援する夫

この25年で仕事を続ける女性が増えましたが、それに伴う意識にどのような変化が見られるのでしょうか。かつては、「夫が外で働き、妻が家庭を守る」という考え方が主流でしたが、現在の妻がフルタイムで働く30代～40代の家族は、「夫も妻がフルタイムで働くことを望み、応援する」という考え方が浸透しています。その背景には、夫婦関係はフラットになり、家庭内における妻の存在感が相対的に高まっているということもありそうです。

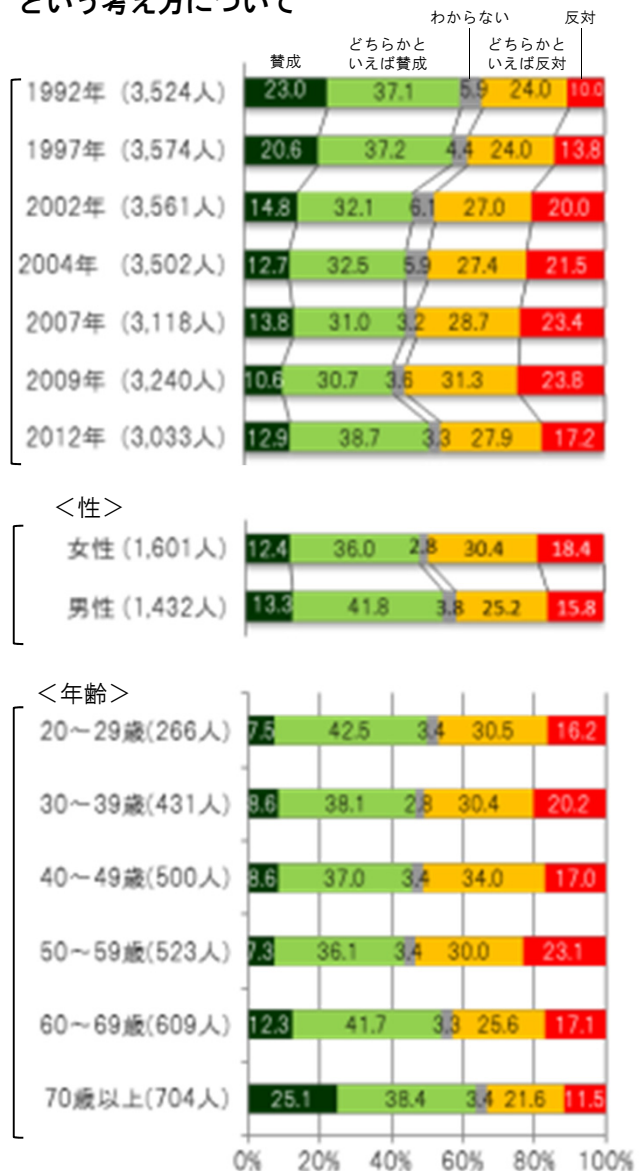
仕事

「いまどき」夫婦は、女性も働くべきと考える

男女共同参画社会に関する世論調査では、年代が下るにつれ「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対する意見が増えています。反対意見は1992年には34.0%でしたが2012年には45.1%にまで増えています。また、男性よりも女性が、そして年齢が若いほど反対意見が多くなっています。このことから、社会全体として「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方の少なくなっていると言えるでしょう。



■ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方について※



※内閣府・男女共同参画社会に関する世論調査 平成24年度(2012)

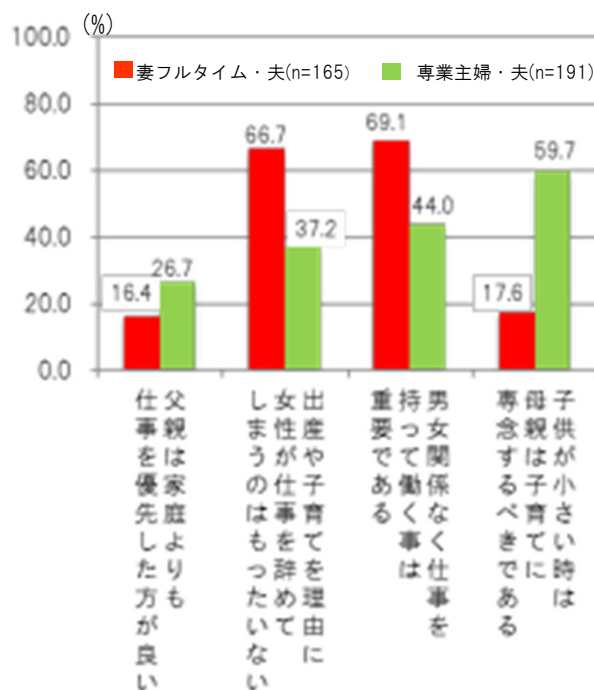
旭化成ホームズ 共働き家族研究所の調査データについて、まず、妻の就業形態別に夫の意識をみると、妻がフルタイムで働く夫の方が、専業主婦の妻の夫にくらべて「出産や子育てを理由に女性が仕事を辞めるのはもったいない」、「男女関係なく仕事を持って働くことは重要である」と考える割合が高くなっています。このことから、妻がフルタイムで働く夫は「仕事・家事・育児は夫婦協働に担う」という意識を持っているといえそうです。

一方、妻が専業主婦の夫は「子どもが小さい時は、母親は子育てに専念すべきである」に賛成する割合高くなっています。この背景には、子どもが小さい時には母親がそばにいることを優先して欲しいという希望があるのでしょう。

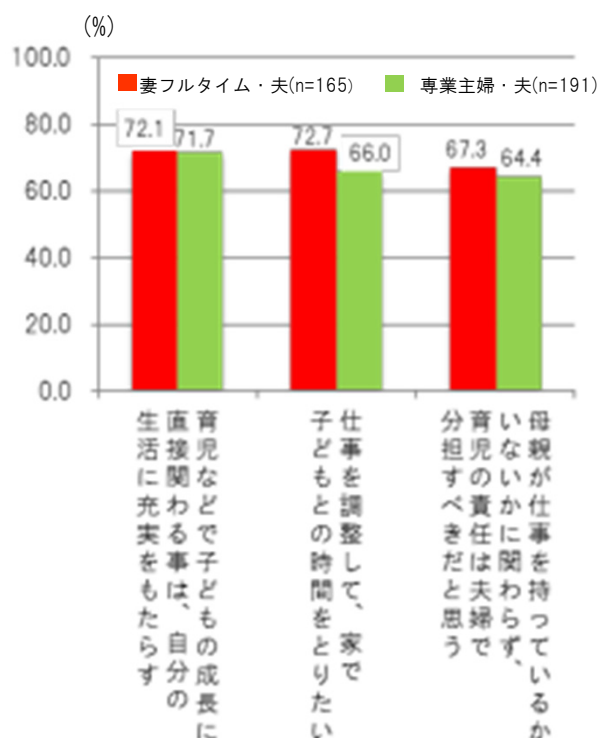
つぎに、夫の育児に対する意識についてみると、妻の就業形態に関わらず、どちらも全ての項目で「あてはまる」という割合が多いことから、男性も育児に積極的に関わりたいという価値観がはっきりと表れています。

すなわち、イクメン現象により、夫が積極的に育児に関わるのが当たり前の時代になってきており、それは妻の就業形態とは関係なく、多くの夫達が子どもとの時間を大切にしているのだと考えられます。

夫の自身の仕事観・家族観 および妻の就業に対する意識※



夫の育児に対する意識※



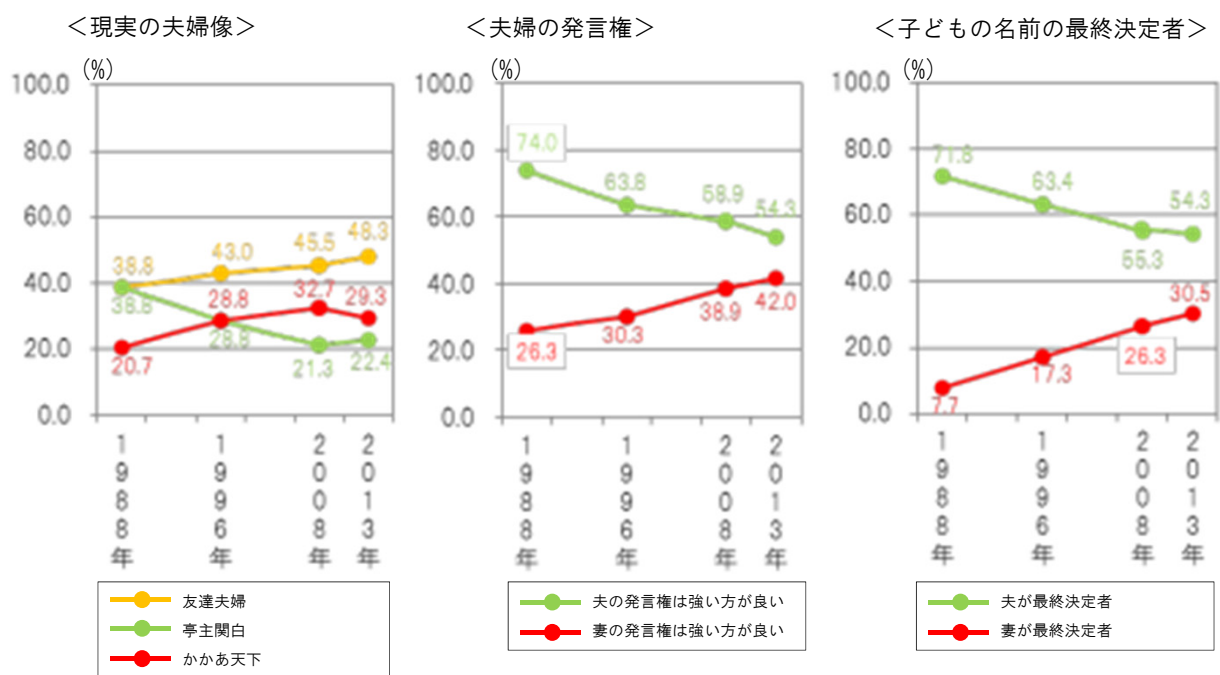
「亭主関白」から「友達夫婦」へ

夫婦関係はフラットになり、家庭内における妻の存在感が相対的に高まっています。25年前はまだ一般的だった亭主関白は減少し、今では「友達夫婦」が主流になりました。

発言権に関してみると、「夫の発言権は強い方が良い」が弱まり、「妻の発言権は強い方が良い」と考える傾向が夫婦ともに強まっています。子どもの名前を決める妻が増えているという結果も妻の立場が強まっていることを象徴的に表しているといえるでしょう。※



■ 博報堂生活総合研究所 夫婦関係はフラット化 相対的に妻の立場が強まる※



※本文および図表：出典「日本の家族25年変化」(2013.9) 博報堂生活総合研究所

電気掃除機の変遷と進化する機能・デザイン

家庭用の電気掃除機が日本の家庭に登場しておよそ四半世紀。その間に機能やデザインが大きく進化しました。

1970年代の第1次マンションブーム以降、フローリング床の住宅が増加、電気掃除機の普及率が90%を超えました。1980年代には使い捨て紙パック式の掃除機が登場、それまでの布フィルター式の掃除機に比べ集塵部の手入れが格段に楽になりました。その後、1990年代に紙パックを使わないサイクロン式が登場。吸引力が高く、集塵部の手入れも簡単のため電気掃除機の主流となりつつあります。こうした進化の過程でデザインも大きく変わってきています。かつて「白物」といわれた家電製品ですが、昨今の売り場を見るとグレーや黒、メタリックなカラーでデザインへのこだわりを感じさせる製品が増えてきています。男性も炊事をし、掃除機をかける時代。花柄の炊飯器や電気ポットなどは影を潜め、男女関係なく使えるデザインが今や主流。そんな「カッコイイ」家電は、男性の家事参加を促し共働き家族を支える影の立役者かもしれません。

また、掃除機の中で見逃せないのがハンディ型の充電式掃除機です。普段は充電式掃除機で部分的に、休日など時間のある時にはコンセントにつないで使う掃除機でしっかりと…というように用途によって掃除機を使い分けている家庭も見られます。

さらに、2010年代に家庭用として登場したロボット掃除機は、共働き家庭においては今や必須アイテムに近いでしょう。留守中や、夜間に自動で掃除してくれる機能は画期的。近い将来、掃除担当は夫でも妻でもなく「ロボット」になるかもしれません。

※1：画像提供 パナソニック株式会社

※2：画像提供 セールス・オンデマンド株式会社

(年)

1960

団地ブーム
団地では、戸建の住宅のように外にゴミを掃き出すことが困難となり掃除機が普及



1970

■布フィルター式掃除機 ※1



1980

■紙パック式掃除機 ※1



1990

■サイクロン式掃除機 ※1



■充電式掃除機 ※1

2000



■ロボット掃除機 ※2

洗濯と関連機器の進化

洗濯板を使って手で洗っていた時代、洗濯は重労働でした。この重労働から開放されるため様々な機器が開発され家事の効率化が進みました。

ハンドルを回してお湯と洗濯物を攪拌する道具やバネの力を利用して濡れた洗濯物を脱水する道具など、人力による器具から始まり20世紀初頭にはアメリカで電気洗濯機が開発されました。

日本で電気洗濯機が一般の家庭に普及したのは1965年以降のことで、当初は「洗濯・すすぎ」と「脱水」を別の層で行う二層式洗濯機。1980年代に「洗濯・すすぎ・脱水」を同じ層で行う全自動洗濯機が開発され、2つの層に洗濯物を移し替える手間が減りました。

「洗う・すすぐ・脱水」を自動でやってくれるとなれば、「乾燥」もして欲しい。そこで登場したのが、乾燥機付全自動洗濯機。ところが「時間がかかる」「洗濯物が縮む」といった弱点があったため、洗濯機とは別にガス乾燥機を取り付ける家庭も。2000年代には、洗濯・乾燥の仕上がりアップさせたドラム式の「洗濯乾燥機」が登場。また、浴室の暖房と洗濯物乾燥機能を備えた「ガス浴室暖房乾燥機」も登場しました。洗濯機には、健康やエコへの関心の高まりから「防カビ」「除菌」「節水」機能も加えられるようになりました。最近では、シワを抑えて乾燥させたり、クリーニング店並におしゃれ着を洗える洗濯機なども現れ、洗濯機の機能はどんどん進化しています。

共働き世帯が増え、「夜に洗濯」「外に干さない」という家庭が多くなるなかで、洗濯に関連する機器への要望はますます高まっていくことでしょう。

※ 1：画像提供 パナソニック株式会社

※ 2：画像提供 東京ガス株式会社

(年)
1960



■ 二層式洗濯機 ※1

1970



■ 全自動洗濯機 ※1

1980



■ ガス乾燥機 ※2

1990



■ 浴室暖房乾燥機 ※2

2000



■ ドラム式洗濯機 ※1

「イクメン」登場と育児グッズの進化

育児に積極的に関わる男性が増え「イクメン」とよばれ注目されるようになりました。そんなパパ達の期待に応えるように、男性も違和感なく使える育児グッズが増えており、売り場で男性が積極的に選んでいる姿も珍しくなくなりました。

当初の「イクメン」たちが目をつけたのが、男性が使うことも視野にいれたものが多い海外の育児グッズでしょう。ベビーカーは、ハンドルの位置が高く背の高い男性でも押しやすく、おんぶや抱っこを助け

るベビーキャリアも「子どもを背負ってハイキングにも行ける」ことをアピールするなど、男性が子どもを連れてアウトドアを楽しむことを想定したものです。

こうした海外の育児グッズは使いやすいだけでなく、男性が使っても違和感のないデザインや色だったことも新鮮でした。これまでの日本の育児グッズが女性の好みに合せた、いわゆる「甘い」デザインだったのとは大きく違っていました。



■ スティック ※1
(ベビーカー)



■ ベルトフィット
コラン コージー※1
(ベビーキャリア)



■ エルゴベビー・オーガニック・
ベビーキャリア※2

海外製品の人気をうけ、日本のメーカーも男性を視野に入れた商品を開発するようになっていきます。モノトーンやビビッドな色使いや、「機能性」を表現したメカニカルなデザインのベビーカーをはじめ、男性に人気のブランドのデザインを取り入れた育児バッグなど。ユニセックスでオシャレだけでなく、日本のメーカーの製品には交通事情や

住宅事情に配慮するなど、細かい便利機能が加えられており手堅い人気があります。

服装や髪型に気を遣う最近の「おしゃれ」パパ達は、子育てだって「かっこよく」こなしたいもの。こうした期待にこたえる機能性やデザイン性に富んだ育児グッズは、男性の育児モチベーションアップに一役かっていることは間違いありません。



■ ハンドル付ストローカップ ※3

※1：画像提供 アップリカ・チルドレンズプロダクツ株式会社

※2：画像提供 株式会社タッドウェイ（日本正規総代理店）

※3：画像提供 OXO（オクソー）

第3章

夫・妻のタイプ分析



3-1 夫・3タイプの分類とその特徴

夫の家事・育児の関与度を3タイプに分類し、「いまどき」の夫の詳細な実態に迫ります。

その指標としたのは、平日・休日において家事・育児に関わる各項目を「している」と回答した個数で、「スゴカジパパ」を回答数42～22、「チョイカジパパ」を回答数21～9、「ノンカジパパ」を回答数8～0と分類しました。回答数が多いほど、家事・育児への関与度が高いタイプとなります。なお、平均値は14.18です。

その結果、30代では「チョイカジパパ」「スゴカジパパ」が多いのに対し、60代では「ノンカジパパ」が多いという、年代による違いが明らかになりました。また、夫のタイプによって、家事・育児関与の実態が異なるだけでなく、家事に対する意識にも大きな違いが見られます。

■ 夫の家事・育児関与度 21項目※

調理	朝食のしたく、朝食の後片付け、夕食のしたく、夕食の後片付け	
洗濯	洗濯をする、干す、とりこむ、たたむ、アイロンがけ	
掃除	お風呂、トイレ、部屋、ゴミ出し	
育児	子どもをお風呂に入れる、おむつ替え、着替えの手伝い、寝かしつけ、 保育園・幼稚園の送り迎え、子どもが病気の時に休む、 保育園・幼稚園の携帯品の準備、面談に行く	

パパ

30代夫の多くは「チョイカジパパ」、60代夫の多くは「ノンカジパパ」

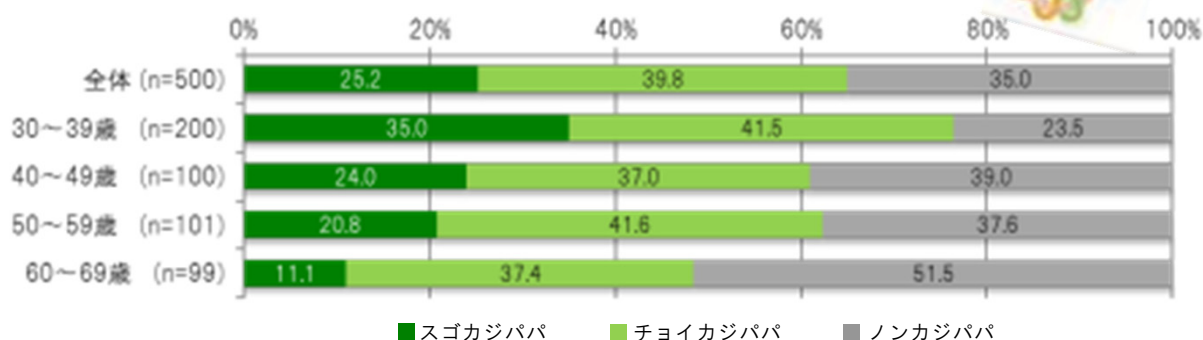
「スゴカジパパ」「チョイカジパパ」「ノンカジパパ」各グループのボリュームを年代別でみていきます。

<全体>をみると、「チョイカジパパ」は各年代において40%前後存在していて、「スゴカジパパ」は30代が最も多く、40代、50代、60代と年代が上がる

につれて少なくなります。「ノンカジパパ」は60代に最も多いですが、30代では最も少なくなっています。

このことから、年代により「夫の家事への関わり方」には顕著な差があるといえます。

■ 年代別にみた夫の家事・育児関与度※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

タイプ別の特徴とは

「スゴカジパパ」は家事・育児にまんべんなく関わるパパです。年代別にみると、30代が最も多く、年代が上がるにつれてその割合が減少し、60代ではごく少数です。

「チョイカジパパ」は育児や掃除には関わるのに対し、調理や洗濯にはあまり関わらず、場数が不足しています。ただし、家事に関わりたい気持ちはあります。各年代で多く見られ、特に30代の中では主流のパパです。

「ノンカジパパ」は、家事・育児への関与度が低く、意識面も「家事は女性がするもの」という男女の役割分担意識を持つパパです。年代別では、60代の中で主流のパパです。

■ スゴカジパパ

回答数：42～22



**調理・洗濯・掃除・育児に
まんべんなく関わる**

男女の役割分担意識が薄く、家事は得意な方がやればよいという感覚

父親が家事をすることは子どもに良い影響を与えるという意識が強く、積極的に関与している様子がうかがえる

30代に多い

■ チョイカジパパ

回答数：21～9



**育児中心に関わり、次いで掃除に
関わるが、調理や洗濯への関与は低い**

自分の家事に自信がない人がいる

家事は得意な方がやればよいという感覚はあるが、「スゴカジパパ」よりはポイントが下がる

父親が家事をすることは子どもに良い影響を与えるという意識も、スゴ家事パパより弱まる

各年代に分布、特に30代でメジャー

■ ノンカジパパ

回答数：8～0



**全体的に、家事・育児への
関与度がかかなり低い**

「家事は女性がするものである」という考えの人が他のタイプより多い

60代に多い

「スゴカジパパ」は家事も育児も、「チョイカジパパ」は育児中心

平日の家事・育児について、夫の3タイプを比較します。全体的に「スゴカジパパ」が家事・育児を問わず、7～9割が関わるという行為が多くなっています。

次に「チョイカジパパ」について見ると、育児には5～7割が、また家事は「ゴミを所定の場所に出す」「お風呂掃除」を半数近くがするのに対し、それ以外の行為は3割程度の関わりであることから、育児中心の関わりであると言えます。

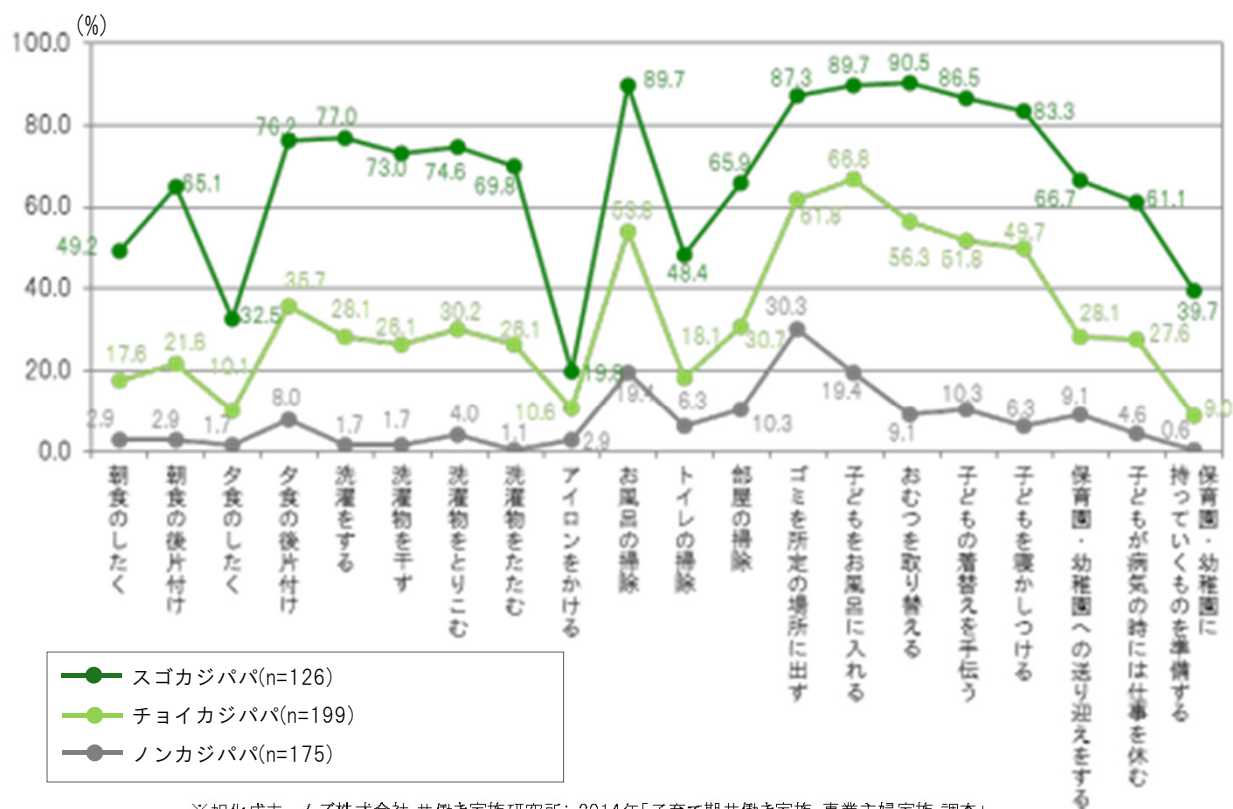
そして「ノンカジパパ」は、「ゴミを所定の場所に出す」が3割を唯一超えますが、それ以外は1割前後に留まり、家事・育児にはほとんど関わっていません。

さて、これら3タイプの比較で、特に違いが表れているのは、洗濯関連行為です。

例えば、「洗濯をする」を「スゴカジパパ」は77.0%がしますが、「チョイカジパパ」は28.1%、「ノンカジパパ」は1.7%とその数字には大きな開きがあります。

その他「洗濯物を干す」「洗濯物を取り込む」「洗濯物をたたむ」も同様の傾向で、「スゴカジパパ」の多くで日常化している洗濯も、「チョイカジパパ」では3人に1人程度がする位、「ノンカジパパ」では、ほぼレアケースとなっています。

■夫の家事・育児関与の実態（平日）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

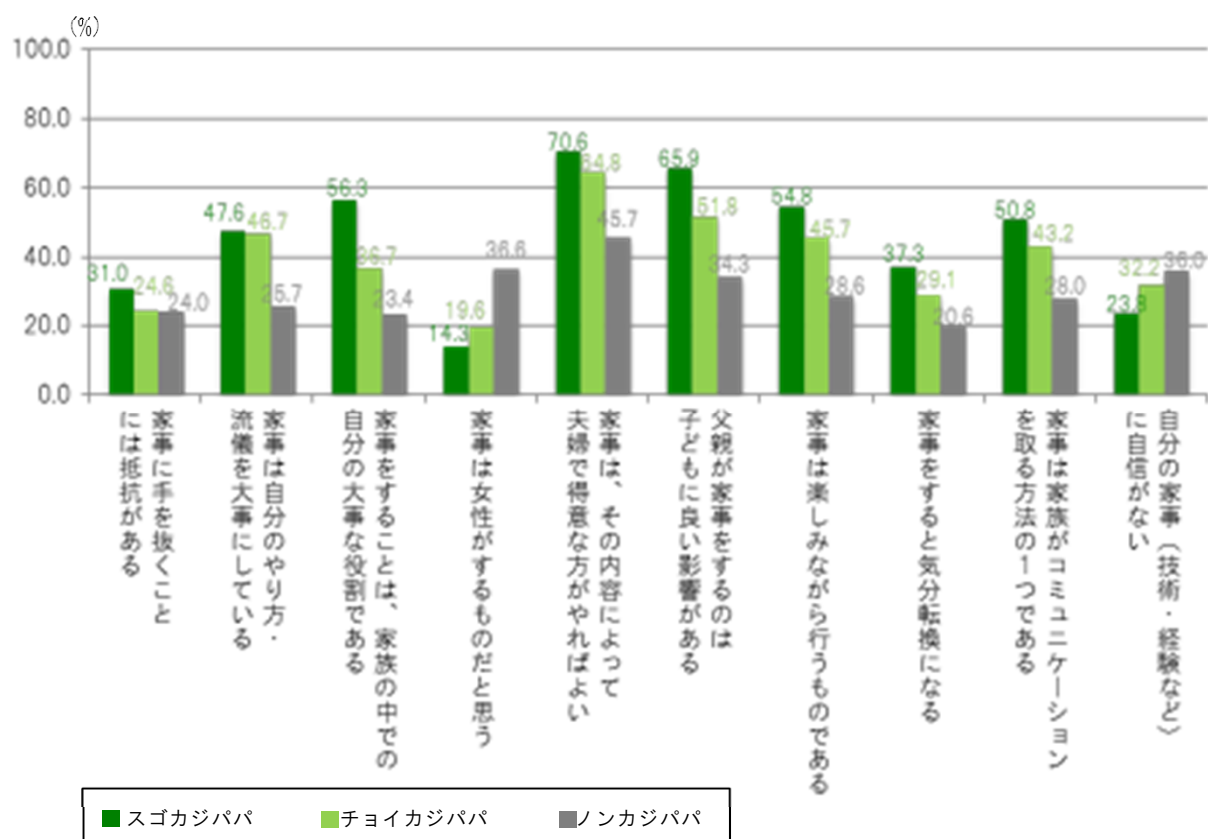
「スゴカジパパ」と「ノンカジパパ」には、男女の役割意識に違いあり

家事に対する意識について、夫の3タイプを比較すると、最も違いが見られるのは、「家事をすることは、家族の中での自分の大事な役割である」という意見です。すなわち、「スゴカジパパ」は56.3%が賛成するのに対し、「チョイカジパパ」は36.7%、「ノンカジパパ」は23.4%と少ないことから、その意識にはかなり違いが見られ、「スゴカジパパ」が役割意識を持って、家事・育児に臨む姿が見てとれます。

また「スゴカジパパ」は「父親が家事をするのは子どもに良い影響がある」という意識も他のタイプよりも顕著なことから、子どもへの影響も意識していると言えます。

一方、「スゴカジパパ」「チョイカジパパ」共通の傾向として、「家事はその内容によって夫婦で得意な方がやればよい」について7割前後が支持していることから、男女の役割分担意識が薄いことが特徴です。なお、「家事は女性がするものだと思う」という意見に対しては、「ノンカジパパ」で36.6%が賛成していますが、「チョイカジパパ」は19.6%、「スゴカジパパ」は14.3%と家事・育児関与度が高くなるにつれ、賛成意見は少なくなります。夫が家事・育児関与する・しないという行動の背景には、こういった意識の影響も見逃せません。

■ 夫の家事に対する意識※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

3-2 妻・3タイプの分類とその特徴

妻の家事をするレベル(しっかり家事度)を3タイプに分類し、「いまだき」の妻の詳細な実態に迫ります。その指標としたのは、家事の仕方に関する13項目について「あてはまる」と回答した個数により、「カミワザママ」を回答数13～10、「ゼンリョクママ」を回答数9～5、「ミニмумママ」を回答数4～0に分類しました。回答数が多いほど、「しっかり家事度」が高いグループとなります。なお、平均値は7.10です。その結果、30代では「ゼンリョクママ」が多いのに対し、60代では「カミワザママ」が多いという、年代による違いが顕著です。また、妻のタイプによって家事に対する意識にも大きな違いが見てとれます。

■妻のしっかり家事度 13項目※

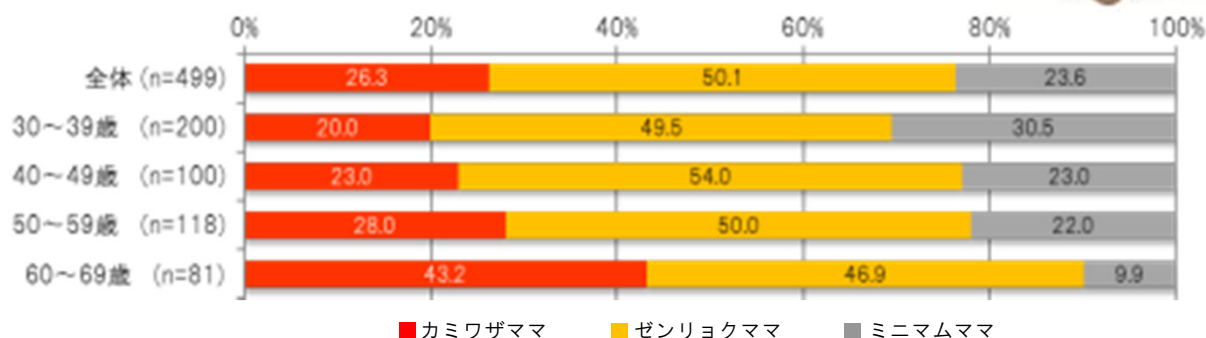
調理	夕食は一汁三菜など品数重視、味付けにはだしを取る 基本調味料を使う栄養バランスを考えた献立を考える、調理家電を使わない	
掃除	雑巾がけ・水拭きする、部屋のすみずみまでピカピカにする、いつもきれいに片づける	
洗濯	洗濯物の種類によって分け洗い・下洗いをする、乾きやすいように洗濯物を干す、 几帳面に洗濯物をたたむ、シャツなどにアイロンがけをする	
衣類管理	家族全員の衣類管理をする、衣替えをする	

ママ いまだきの妻は、ゼンリョクママ

「カミワザママ」、「ゼンリョクママ」、「ミニмумママ」各タイプのボリュームを、年代別でみていきます。＜全体＞をみると、「カミワザママ」は年代が上がるほど、多くなっています。「ゼンリョクママ」は各年代に40～50％程度存在しています。「ミニмумママ」は年代が低いほど多くなっています。

60代を除き、「ゼンリョクママ」が主流とであり、家事レベルは専業主婦＝プロ級を目指さず、できる範囲で、優先順位をつけつつ、がんばれるレベルをこなす人が増えており、「完璧」な仕上がりを求めすぎないことが、男性の家事参加へのハードルを下げることにつながっているといえそうです。

■年代別にみた妻のしっかり家事度※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

「カミワザママ」は、家事・育児全般を完璧にこなすママ、すなわちかつての専業主婦のようにしっかり家事をするママで、年代別では60代に多くなっています。

「ゼンリョクママ」は、「カミワザママ」ほどの完璧さは目指さず、家事に優先順位を付けて合理的に全体をまわすママです。例えば、調理、洗濯、衣類管理はそれなりにやるものの、掃除についてはピカピカレベルをキープするのではなく、ルンバを効率よく使うイメージです。年代別では、各年代で主流派ですが、特に30代～40代でその傾向が顕著です。

「ミニмумママ」は、家事をしっかりしようというこだわりや楽しむなどのポジティブな意識がかなり低く、最低限レベルの家事をこなそうというママです。年代別に見ると、若い30代ほど多くなっています。

■ カミワザママ

回答数：13～10



調理、掃除、洗濯、衣類管理、
全てに渡ってしっかり家事
(専業主婦レベル) をする

男女の役割分担意識が薄く、家事は得意な方がやればよいという感覚

父親が家事をすることは子どもに良い影響を与えるという意識が強く、積極的に関与している様子がうかがえる

60代に多い

■ ゼンリョクママ

回答数：9～5



調理・洗濯・衣類管理全般はそれなりにするが、掃除については、ピカピカになるまでの掃除やきちんと片付いた部屋をキープまではしない

男女の役割分担意識が他のグループより薄く、最も男女フラット感覚を持つ

家事の手を抜くことの抵抗感は、スゴカジママより弱まる

各年代に分布、特に30代・40代で主流

■ ミニмумママ

回答数：4～0



全体的に家事度はかなり低め

全体的に家事へのこだわりやポジティブな意識がかなり低い

「家事は女性がするものだと思う」という意識が、他のグループに比べて極端に低い

30代に多い

全般をこなす「カミワザママ」、優先順位でまわす「ゼンリョクママ」

家事をするレベルについて、妻の3タイプを比較すると、「カミワザママ」は、調理・掃除・洗濯・衣類管理の全般について、8～9割がしています。

一方「ゼンリョクママ」は調理・洗濯・衣類管理は5～6割がしていますが、掃除については、あまり完璧さを求めていることが分かります。

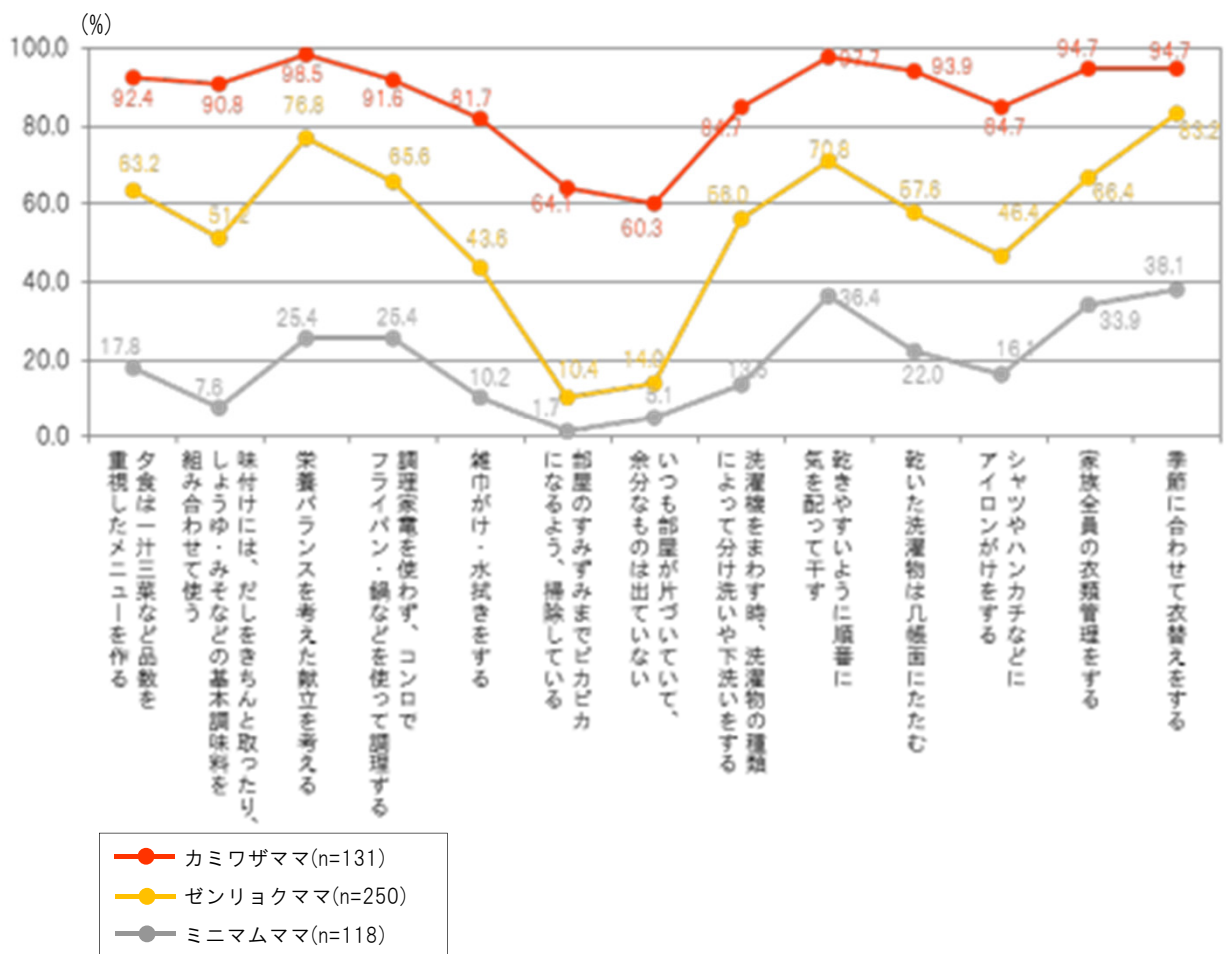
「ミニмумママ」は、調理・掃除・洗濯は1～2割程度という場合が多く、衣類管理も3割程度に留まり、全般的に、家事は最低限で良いという様子です。

これら3タイプの比較で、最も違いが出ているのは調理の「味付けには、だしをきちんと取ったり、しょうゆ・みそなどの基本調味料を組み合わせる使う」です。

すなわち、「カミワザママ」は90.8%が実施していますが、「ゼンリョクママ」は51.2%、「ミニмумママ」は7.6%と家事度が下がるにつれて、激減しています。今は便利な合わせ調味料もたくさん市販されているので、「ゼンリョクママ」や「ミニмумママ」はそれらを上手に取り入れてるのでしょう。

なお、掃除の「部屋のすみずみまでピカピカになるよう、掃除している」「いつも部屋が片づいていて余分なものは出ていない」は、「ゼンリョクママ」と「ミニмумママ」にあまり違いがなく、1割～0割です。「ゼンリョクママ」は掃除には、完璧さを求めずに、調理や洗濯を優先していることが分かります。

■妻のしっかり家事レベルの実態※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

きちんと楽しく派の「カミワザママ」とメリハリ派の「ゼンリョクママ」

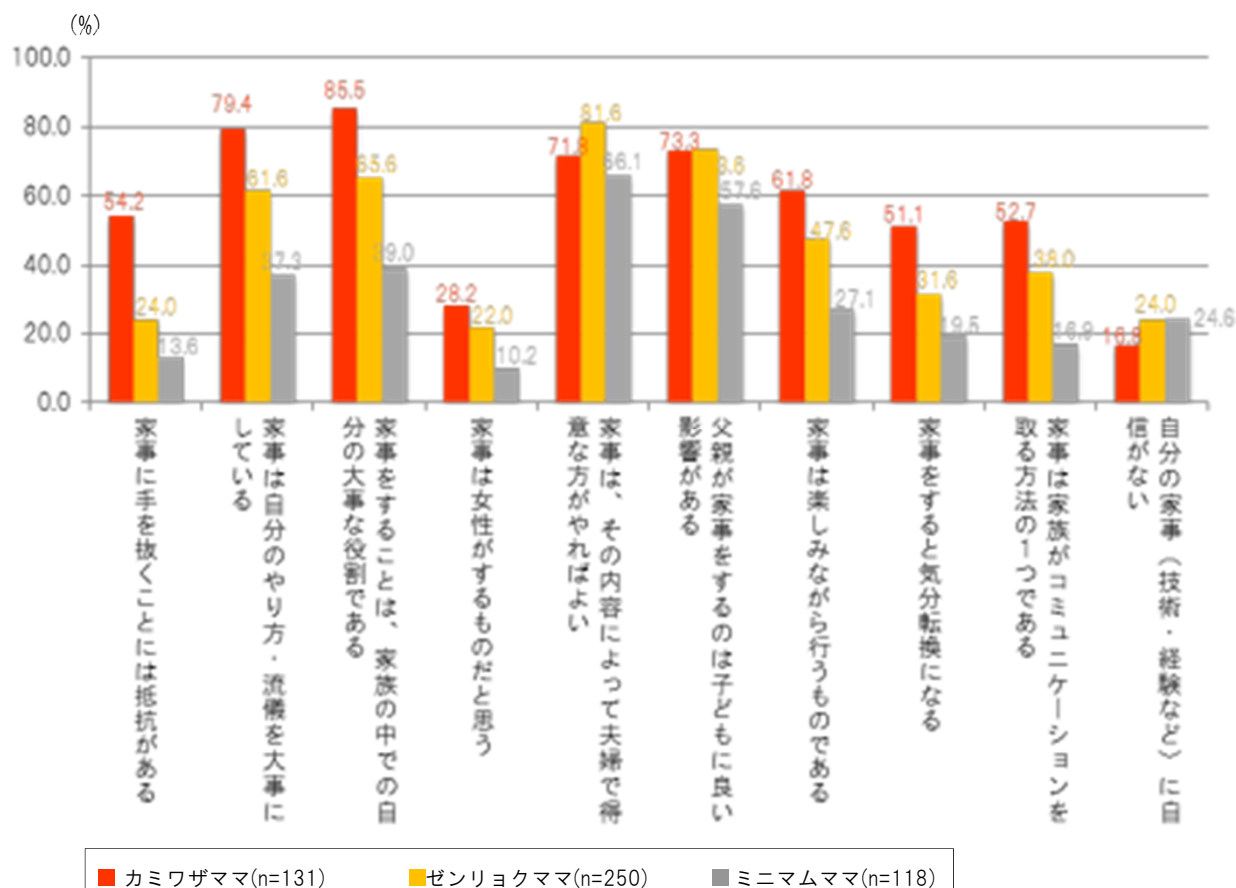
家事に対する意識について、妻の3タイプを比較すると、最も違いが見られるのは、「家事をすることは、家族の中での自分の大事な役割である」という意見です。すなわち、「カミワザママ」で最も多く85.5%、「ゼンリョクママ」65.6%、「ミニмумママ」39.0%の順に少なくなります。

これは、「家事は自分のやり方・流儀を大事にしている」や「家事に手を抜くことには抵抗がある」でも同様の傾向が見られます。特に、「ゼンリョクママ」は完璧な家事を目指さず、力を入れる部分とほどほどにする部分のメリハリのあるやり方を大事にしていると考えられます。

一方で「カミワザママ」は、「家事は楽しみながら行うものである」「家事をすると気分転換になる」という意識も他のタイプに比べて高いことから、前述の家事をしっかりとやりたい気持ちと家事を楽しむ気持ちの両方を持っていることが特徴的です。

なお、「父親が家事をするのは子どもに良い影響がある」という意見に対しては、「カミワザママ」で73.3%、「ゼンリョクママ」で73.6%、「ミニмумママ」で57.6%と、いずれのママでも賛成意見が大半を占めています。

妻の家事に対する意識※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

3-3 夫・3タイプの詳細(3世代比較)

同じ夫のタイプであっても、世代による違いはあるのでしょうか。

ここでは、各タイプごとに、3世代(現在30代、10年前30代、25年前30代)による比較を行います。

「スゴカジパパ」は、もともと家事・育児全般に関わりますが、特に現在30代の場合、洗濯や育児への関与が他の世代に比べてより進み、かつ家族の中での役割分担意識を持って、家事に臨んでいます。

「チョイカジパパ」は育児を中心に、部分的に家事に関わる傾向がありますが、現在30代の場合は、「部屋の掃除」にも関わっています。意識面では、家事に対して前向きなイメージを持っています。

「ノンカジパパ」は、全体的に家事・育児全般への関与が薄く、その意識も低めですが、現在30代に限って言えば、「ゴミを所定の場所に出す」「子どもをお風呂に入れる」などのある限定した行為のみをしています。

若い「スゴカジパパ」は、洗濯・育児への関与が進んでいる



「スゴカジパパ」の「家事・育児への関与」について、3つの世代別にみると、現在の30代は洗濯や育児への

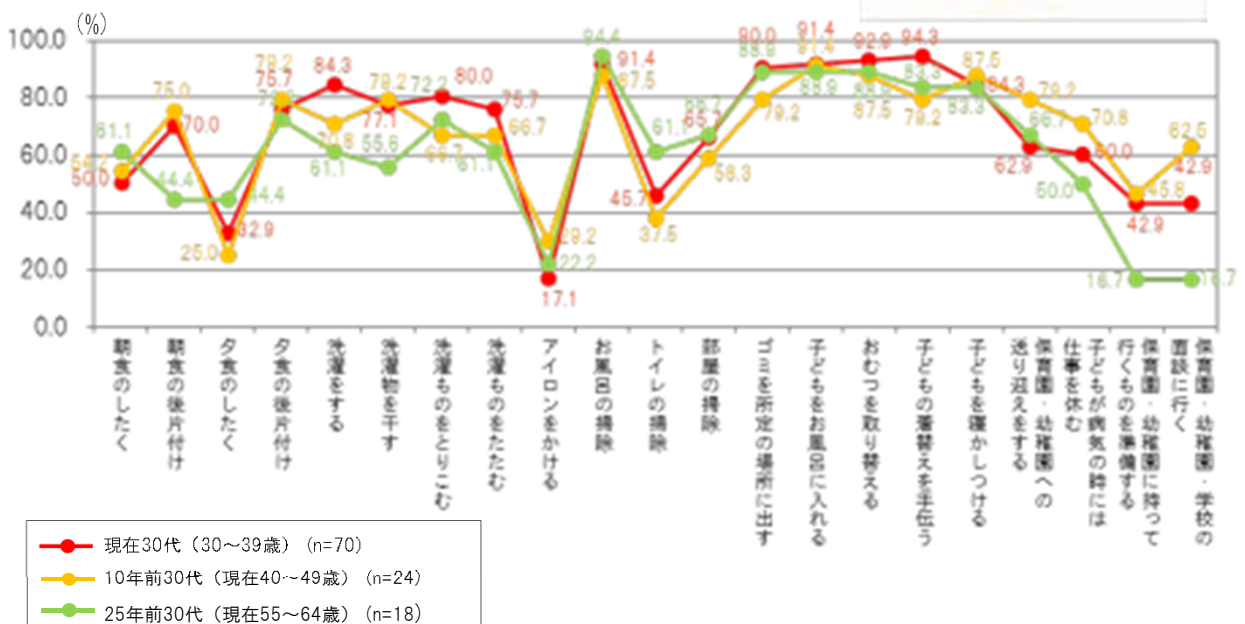
関与がより進んでいると言えます。すなわち、現在30代の世代は「洗濯をする」「洗濯物を取り込む」「洗濯の物をたたむ」には約8割が、「おむつを取り替える」「子どもの着替えを手伝う」には約9割が関わっていることから、より積極的な家事・育児関与

の様子がうかがえます。

一方、「朝食の後片付け」についても、10年前30代は75.0%、現在の30代は70.0%がしていますが、25年前30代は44.4%に留まり、若い世代ほどしており、平日の忙しい朝の時間帯であっても、家事をする夫の姿が見てとれます。



■「スゴカジパパ」(平日)の家事・育児関与(世代別)※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所: 2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

若い「スゴカジパパ」は、家事が家族の中での役割分担意識に



「スゴカジパパ」の「家事に対する意識」を3つの世代別にみていきます。

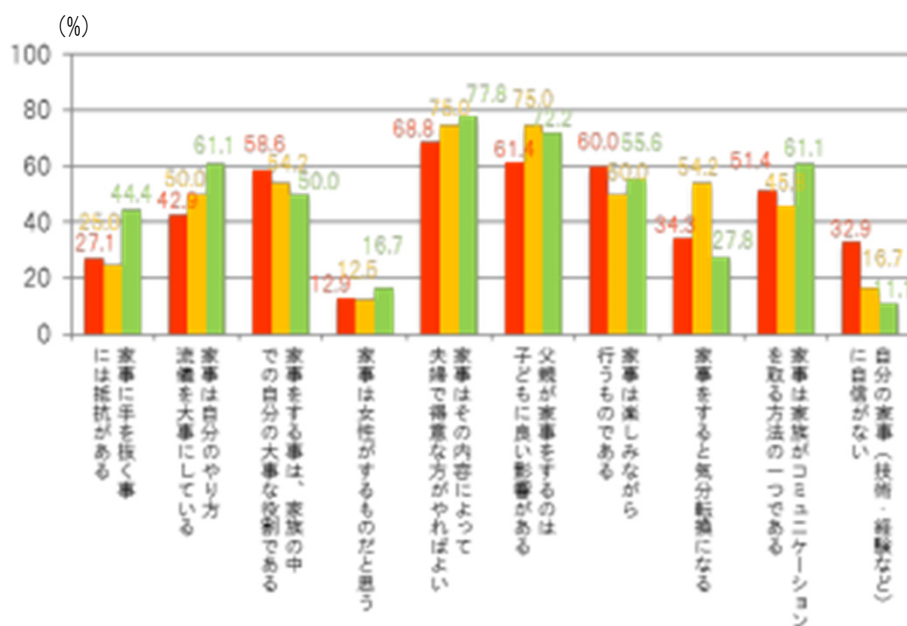
現在30代の世代は「家事をすることは、家事をすることは家族の中で大事な役割である」(58.6%)や「家事は楽しみながら行うものである」(60.0%)を支持する人が、他の世代と比べて多いことから、家事に対してポジティブな意識を持っているといえるでしょう。

これに対し、25年前30代の世代は「家事に手を抜

くことには抵抗がある」が44.4%、「家事は自分のやり方・流儀を大事にしている」61.1%と、しっかりやらなければならないという家事観やこだわりが強い様子がみてとれます。

なお、「家事は女性がするものだと思う」という意見については、世代を問わず賛成する人は1割前後に留まっており、かつ「家事はその内容によって夫婦で得意な方がやればよい」に賛成する人が7割近いことから、「スゴカジパパ」に従来の男女の役割分担意識が極めて薄いことが分かります。

■ 「スゴカジパパ」の家事に対する意識※



■ 現在30代(30-39歳) (n=70)
 ■ 10年前30代(40-49歳) (n=24)
 ■ 25年前30代(55-64歳) (n=18)

若い「チョイカジパパ」は、部屋の掃除もする



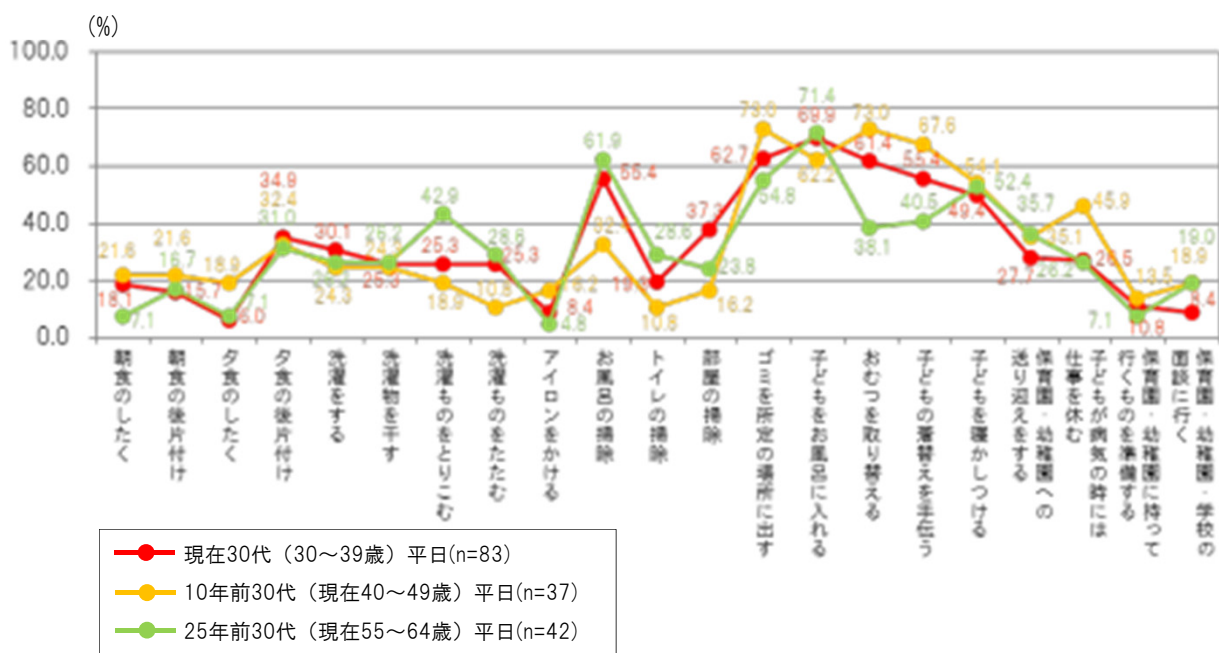
「チョイカジパパ」の家事・育児への関与についても、3つの世代別にみていきます。

現在30代の世代は、「部屋の掃除」に他の世代よりも多く関わっています(37.3%)。これは、掃除機のデザインが変わり、若い世代が好むスタイリッシュで手軽に使えるデザインが増えたことの影響もあるかもしれません。

一方、10年前30代の世代は、「おむつを替える」「子どもの着替えを手伝う」に約7割が関わっており、「子どもが病気の際は仕事を休む」と回答する人も5割弱存在し、特に育児に関わっているといえます。



■「チョイカジパパ」（平日）の家事関与（世代別）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

「チョイカジパパ」も、家事に対して前向きなイメージ



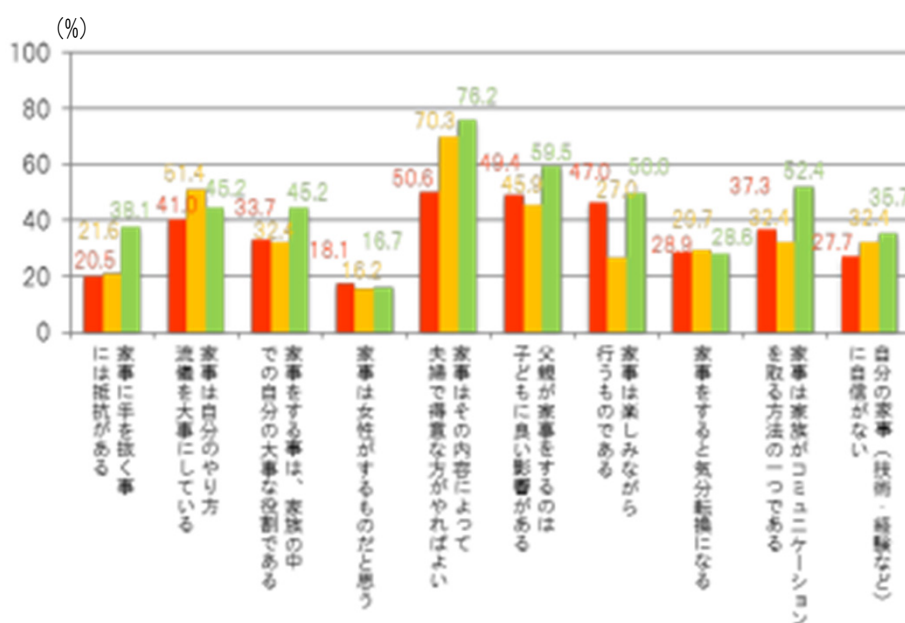
「チョイカジパパ」の家事に対する意識を世代別に比較すると、「家事派その内容によって得意な方がやれば

よい」「父親が家事をするのは子どもにとって良い影響がある」という意見については、特に25年前30代の世代で支持する人が多い傾向があります。また、25年前30代の世代は、「家事は家族のコミュ

ニケーションを取る方法の1つである」(52.4%)や「家事は楽しみながら行うものである」(50.0%)といった意識も高いことが分かります。

一方、現在30代も、約半数の人が「家事は楽しみながら行うものである」という意識を持っており、家事に前向きなイメージを持っていると考えられます。

■ 「チョイカジパパ」の家事に対する意識※



「ノンカジパパ」は、家事全般に手を出さない



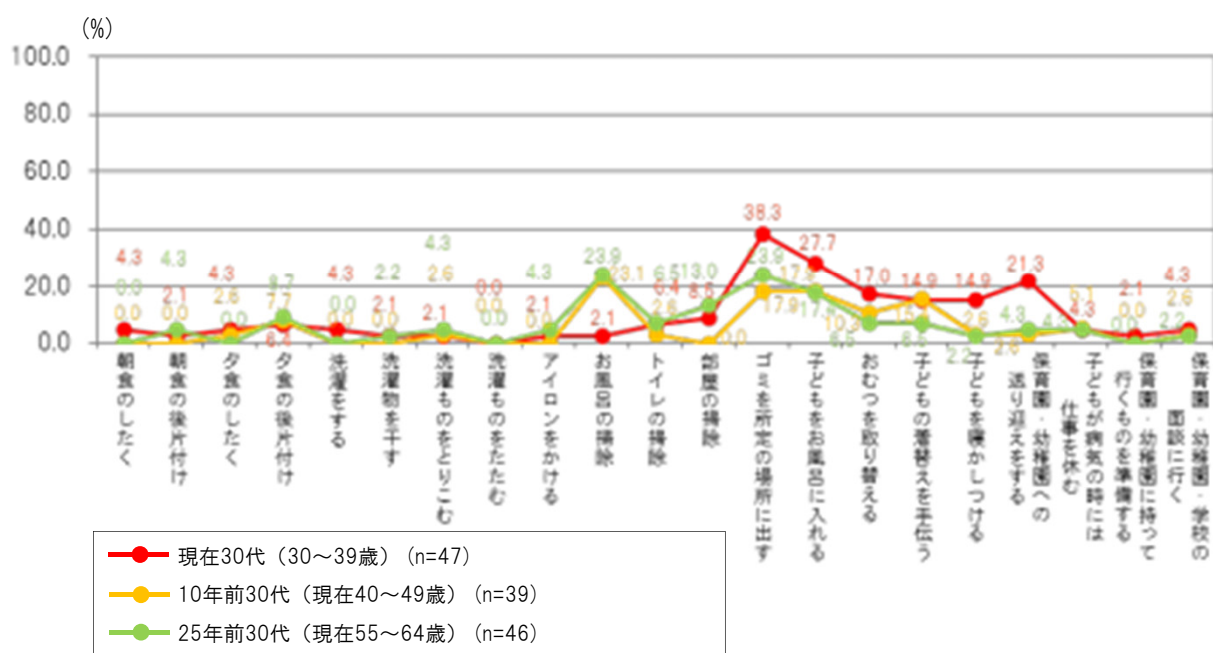
「ノンカジパパ」については全体的に、家事・育児への関与する度合いがかなり低いのが特徴的といえるでしょう。

ただし、家事・育児をあまりしないとはいえ、現在30代の世代については、「ゴミを所定の場所に出す」に4割近く、「子どもをお風呂に入れる」に3割近く、「オムツを取り替える」に関しては2割近くが

することから、ある程度ではありますが、家事・育児の基本的な部分には関わっていると言えるでしょう。しかし、調理、洗濯関係になるとほとんど手を出していない状況です。



■ 「ノンカジパパ」（平日）の家事関与（世代別）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

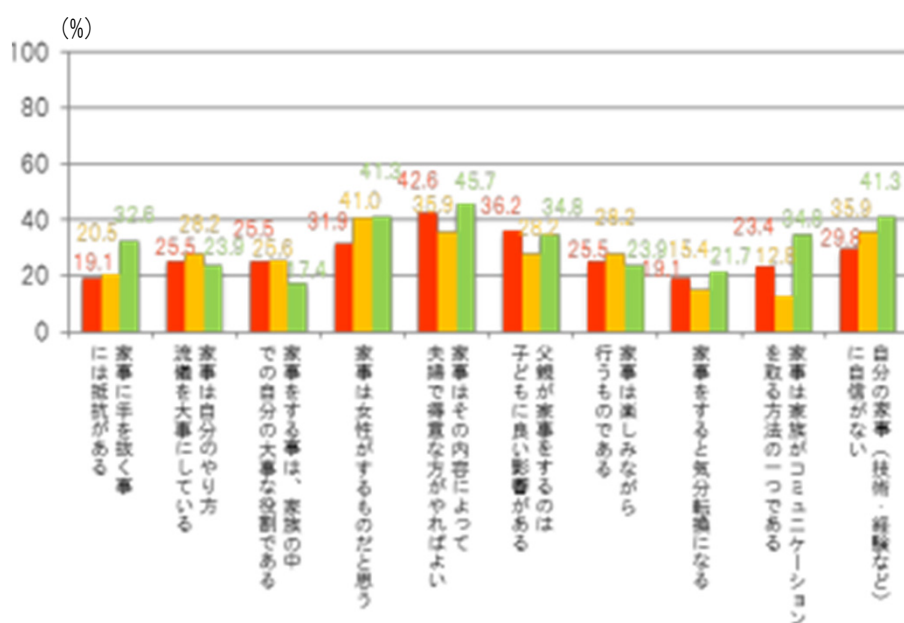
「ノンカジパパ」は、家事への関心が薄い



「ノンカジパパ」は、「家事は女性が
するものである」と考える人が、現在
30代の世代では31.9%、10年前
30代の世代では41.0%、25年前30代の世代では
41.3%となっており、他のグループに比べて多い
のが特徴的です。

その他、家事に対する前向きな意見の項目につ
いては、全体的に支持する人が少なく、「スゴカジ
パパ」や「チョイカジパパ」と比べて、「ノンカジパ
パ」が家事への関心度が低いことが明らかなです。

■ 「ノンカジパパ」の家事に対する意識※



3-4 妻・3タイプの詳細（世代比較）

夫と同様、妻のタイプごとに、3つの世代（現在30代、10年前30代、25年前30代）による違いはあるかを見ていきます。

「カミワザママ」は家事全般をしっかりとやるタイプですが、特に現在30代の世代ほど、部屋の掃除や片付けをしっかりとしています。また、この現在30代世代は他の世代に比べて、楽しみながら、かつ手を抜かずきちんと家事をやりたいという意識が強いことも特徴です。

「ゼンリョクママ」は、全ての家事を完璧にするのではなく、優先順位をつけて、全体をまわす傾向が事態面・意識面の両方に見られますが、特にこの傾向は現代30代に顕著です。

「ミニマムママ」は、世代を問わず、最低限の家事レベルで日々をまわすことが精一杯の様子で、家事を楽しむ意識が薄さが目立ちます。

「カミワザママ」は、若い世代ほどきれい好き



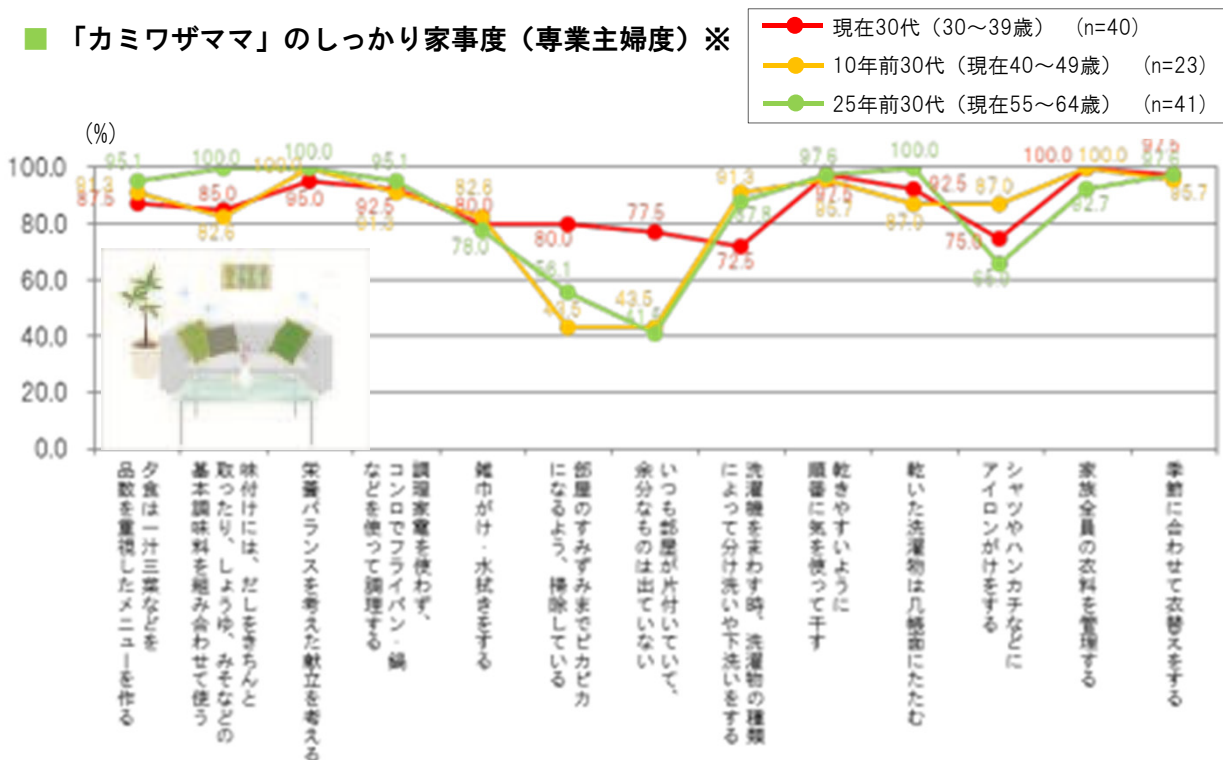
「カミワザママ」を3つの年代別にみていきます。

「部屋のすみずみまでピカピカになるよう、掃除をしている」や「いつも部屋が片づいていて、余分なものは出ていない」は、特に現在30代の世代が、他の世代よりしていることが分かります。この背景には、小さな子どものアレルギー対策

や片付いた部屋でくつろぎたいという意向があると考えられます。

一方、25年前30代の世代では「味付けにはだしをきちんと取ったり、基本調味料を使う」や「栄養バランスを考えた献立を考える」がそれぞれ100.0%と、手作り調理かつ栄養バランスへの配慮をほぼ全員が実践しているという結果でした。

■ 「カミワザママ」のしっかり家事度（専業主婦度）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

若い「カミワザママ」は、家事を楽しむと同時にきちんとやりたい



「カミワザママ」の家事に対する意識を3つの世代別にみていきます。

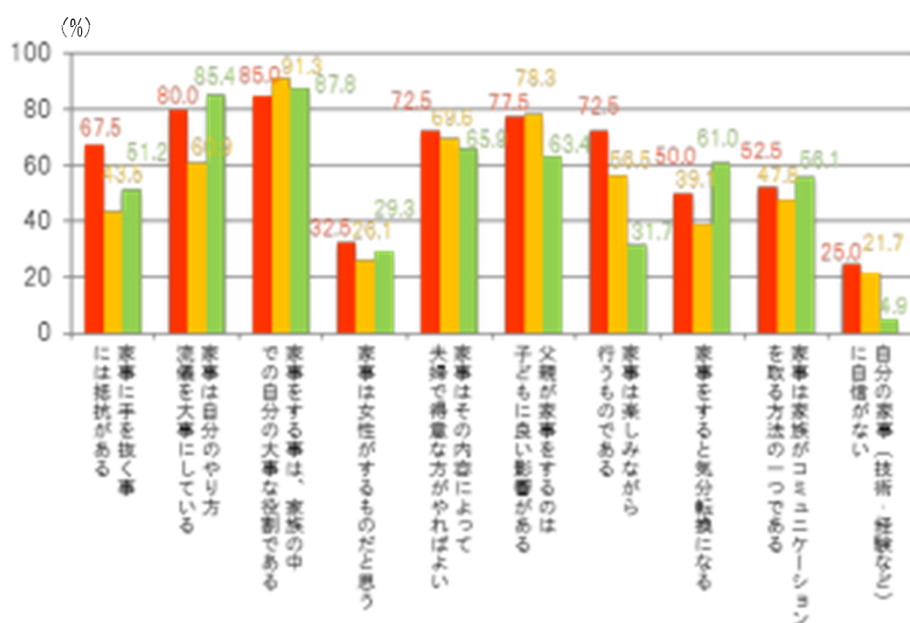
「家事は楽しみながら行うものである」については、現在30代の世代が72.5%、10年前30代の世代が56.5%、25年前の30代世代が31.7%と、世代が上がるにつれてその数値は減少しています。

一方、「家事に手を抜くことに抵抗がある」という意見に対して、現在30代の世代で67.5%、25年前30

代の世代で51.2%、10年前30代の世代で43.5%と、世代による違いが出ており、最も若い現在30代の世代でその意識が強いことから、まじめに家事に向き合う姿勢がうかがえます。

以上より、現在30代の世代は、家事を楽しむことと同時に、きちんとやらなければと思っており、つまり両極端の意向を持ち合わせていますが、これは、きちんとやった後の達成感が楽しみに変わる面ものではないでしょうか。

■「カミワザママの家事に対する意識」※



■ 現在30代(30-39歳) (n=40)
■ 10年前30代(40-49歳) (n=23)
■ 25年前30代(55-64歳) (n=41)

※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

若い「ゼンリョクママ」世代は、家事に優先順位をつけてまわす



「ゼンリョクママ」の「しっかり家事度」を世代別に比較すると、「栄養バランスを考えた献立を考える」は25年前

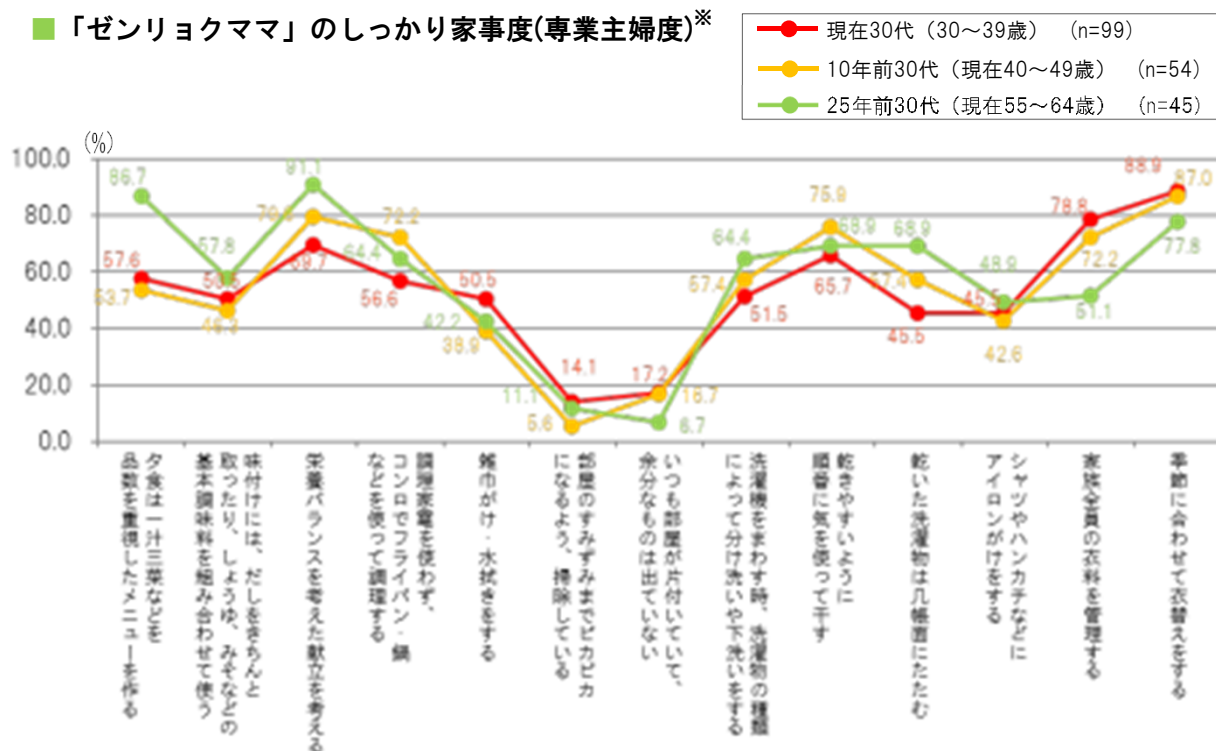
25年前30代の世代で最も多いですが(91.1%)、世代が若くなるにつれて、その数値が低くなり、現在30代の世代では69.7%と20ポイント近く少なくなっています。これは、「乾いた洗濯物は几帳面にたたむ」でも同様の傾向です。

以上より、現在30代の世代は、生活するのに困らない程度に家事の優先順位をつけて、全体をまわす傾向が強いと考えられます。

なお、25年前30代の世代で「家族全員の衣料を管理する」のは、約半数に留まり、他の世代より少ないですが、これは子どもが成長し、自己管理ができる年齢であるからでしょう。



■「ゼンリョクママ」のしっかり家事度(専業主婦度)※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

「ゼンリョクママ」の上手な夫活用は、世代共通の傾向



「ゼンリョクママ」の家事に対する意識には世代による違いがあまり見られません。

世代共通の傾向として、「家事はその内容によって夫婦で得意な方がやればよい」「父親が家事をするのは子どもにとって良い影響がある」という人が多い、夫の家事関与を特に歓迎しているグループであることがみてとれます。

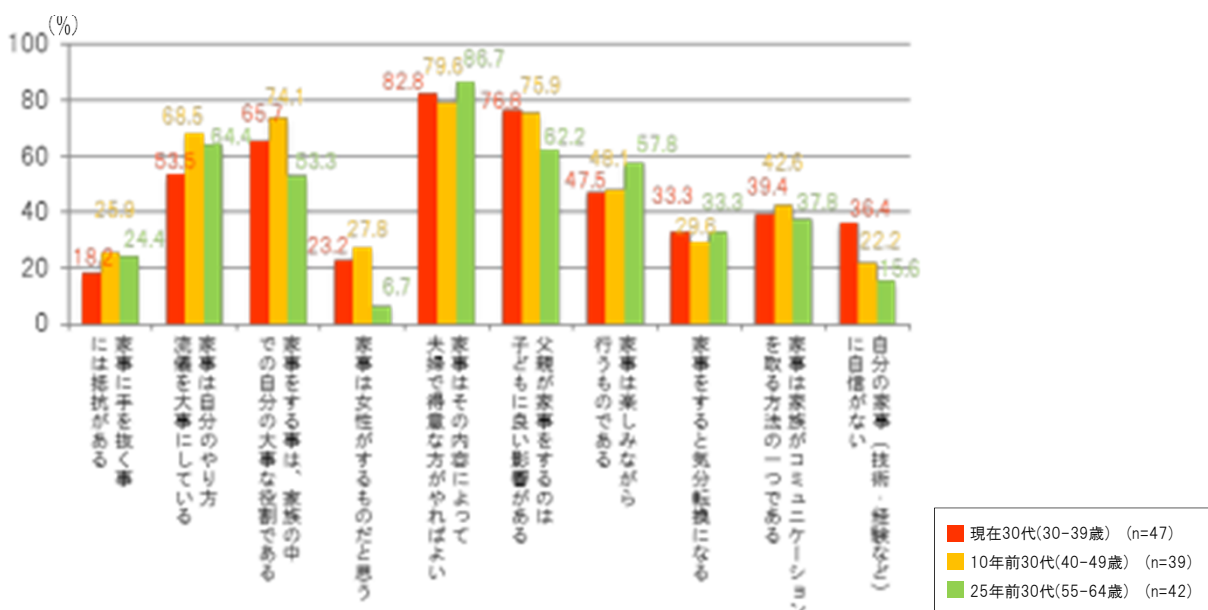
また、「家事に手を抜くことには抵抗がある」は、各世代とも2割前後に留まることから、全ての家事に「完璧」を目指すのではなく、優先順位の高いもの

はしっかり、低いものはほどほどにこなすという家事のやり方を許容する気持ちが現れているのでしよう。

唯一の世代による違いは、「自分の家事に自信がない」で、若い現在30代の世代ほど、自信がないとしています(36.4%)。



■「ゼンリョクママ」の家事に対する意識※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

10年前30代の「ミニмумママ」は、洗濯や衣類管理を優先



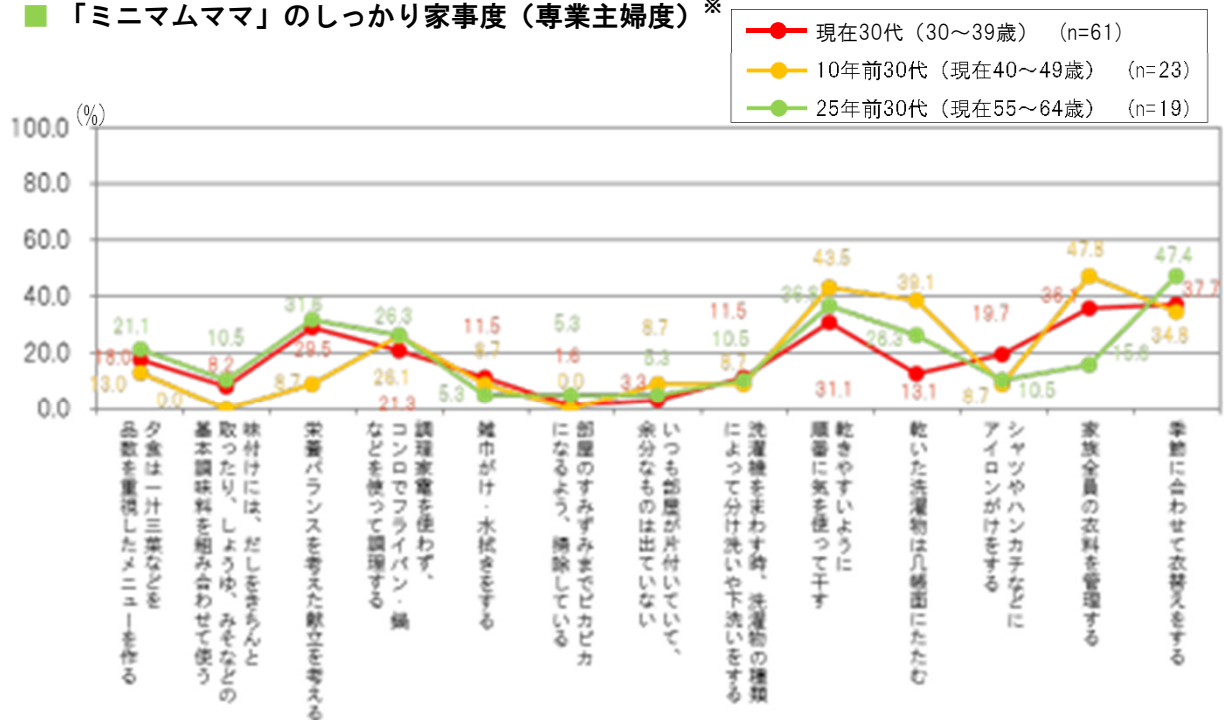
「ミニмумママ」の「しっかり家事度」は全体的にはかなり低めで1～4割となっています。

がしており、最低限の家事派とはいえ、洗濯や衣類管理については、多くの家事の中でも、優先的にそれなりにやっている様子がうかがえます。

しかし、10年前30代の世代では洗濯に関する項目の「乾きやすいように順番に気を配って干す」については43.5%、「乾いた洗濯物は几帳面にたたむ」については39.1%、衣類管理に関する項目の「家族全員の衣類管理をする」については47.8%



■「ミニмумママ」のしっかり家事度（専業主婦度）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

「ミニмумママ」は、世代を問わず「家事＝女性」に否定的



「ミニмумママ」の「家事に対する意識」をみていくと、世代に関わらず「家事は女性がするものだと思う」と

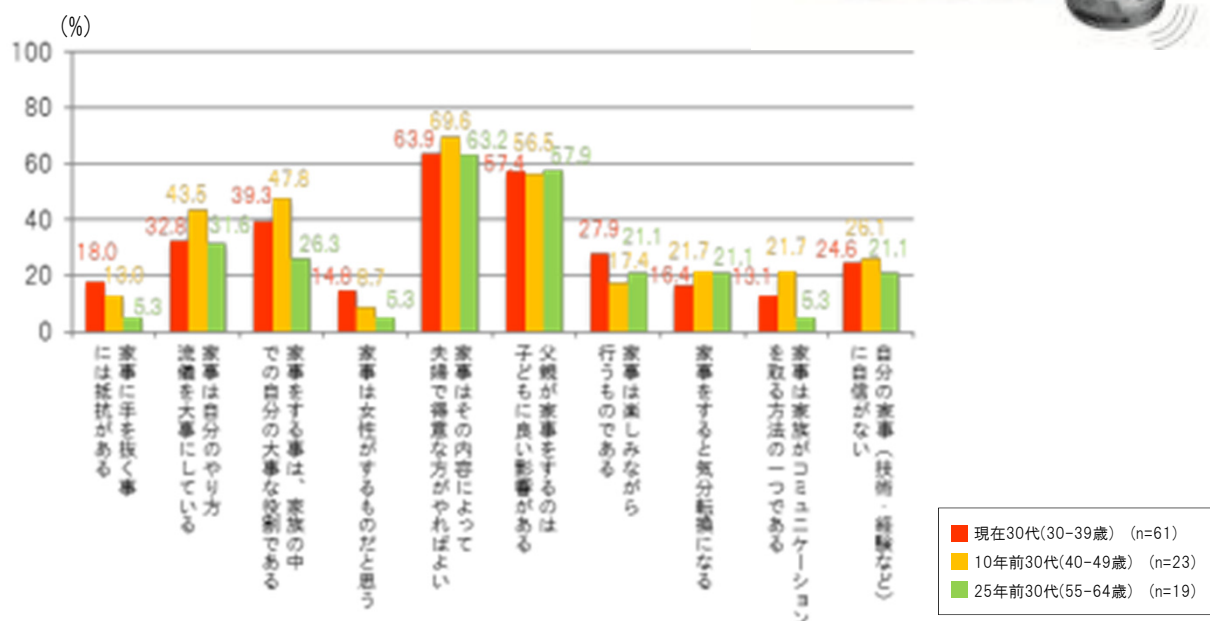
いう意識が1割前後と、他のグループに比べて特に低くなっているのが大きな特徴です。

また、「家事は楽しみながら行うものである」「家事をすると気分転換になる」「家事は家族がコミュニケーションを取る方法の1つである」といった意見について

では、どの世代でも1～3割程度であることから、家事を楽しむ意識が極端に低い傾向が見られ、家事を必要に迫られてやっていたり、仕方なくやっている様子が推察されます。



■ 「ミニмумママ」の家事に対する意識※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

「チョイカジパパ」×「ゼンリョクママ」はハッピーカップル!?

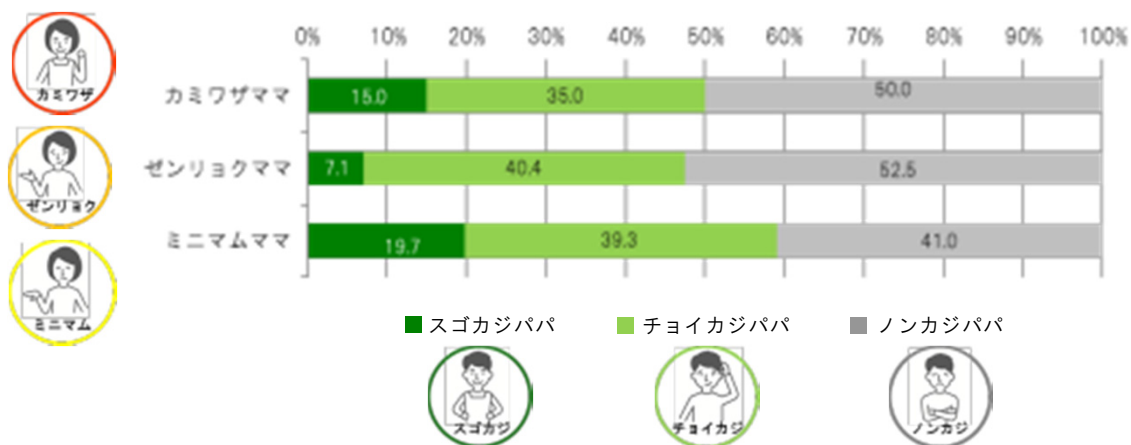
夫と妻のタイプを見てきましたが、その組み合わせはどうなっているのでしょうか。

30代に絞って見てみると、グラフより、「カミワザママ」の場合、「ノンカジパパ」が5割と最も多く、次いで「チョイカジパパ」3割強となっています。

「ゼンリョクママ」について見ると、「ノンカジパパ」が5割強、その次に多いのが「チョイカジパパ」で約4割です。

「ミニママ」は「ノンカジパパ」、「チョイカジパパ」がそれぞれ約4割と二分しています。

■ ママ×パパの組み合わせ（30代）※



この中で注目したいのは、「チョイカジパパ」と「ゼンリョクママ」の組み合わせです。

育児はある程度していますが、家事にいまいち踏み込めてない「チョイカジパパ」にとって、「カミワザママ」とは違って、「ゼンリョクママ」の家事に完璧さを求めない姿勢は、夫の家事に対するハードルも低いと言えるでしょう。

「チョイカジパパ」も「ゼンリョクママ」も、「家事はその内容によって、夫婦でどちらか得意な方がやれば良い」という価値観を持っているので、お互いニュートラルでフラットな夫婦関係を求めていることも共通しています。

あとは、パパはできることから着々と場数をこなし、ママは口に出して褒めてあげましょう。

	昔 (25年前30代) カミワザ ママ	今 (現在30代) ゼンリョク ママ
■ 掃除	部屋の隅々までピカピカになるよう掃除している YES 56%	14%
■ 洗濯	乾いた洗濯物は几帳面にたたむ YES 100%	46%
■ 調理	電子レンジを使わず、コンロで鍋などを使って調理する YES 95%	57%

※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

活況を呈す惣菜売り場

デパートやショッピングモールの惣菜売り場が活況な今日この頃。スーパーでも力を入れ、種類も豊富で、さながら「デリ」のようにお洒落な売り場も。外食でもなく家庭での調理でもなく、その中間ということで「中食」とも言われます。

統計局の家計調査から、食料全体への支出は減っているにもかかわらず、調理食品への支出は増え続けていることが分かります。また、旭化成ホームズの調査でも、フルタイムで働く妻の3人に1人が平日の夕食準備にお惣菜を利用しています。

特に共働きの家庭では、帰宅時間が子どもに夕食を食べさせる時間ぎりぎりだったり、疲れていたりと、毎日料理をするのは大変です。かといって、毎日外食というわけにもいかないのが現実でしょう。そんなときに惣菜はとても便利です。ただし、値段は決して安くはないので、買いすぎると外食に匹敵する高価な夕食になってしまうことも。

惣菜以外にも、生協などの宅配や、スーパーのネット通販なども共働き家族を支えています。夕食の献立にそって、ある程度まで下ごしらえが食材を届けてくれサービスもあります。

今後、共働きの家庭が増えれば、惣菜はじめ「食材の買い出しを含め、準備に時間をかけずに食べられる食品」に対するこうした需要は伸び続けることでしょう。

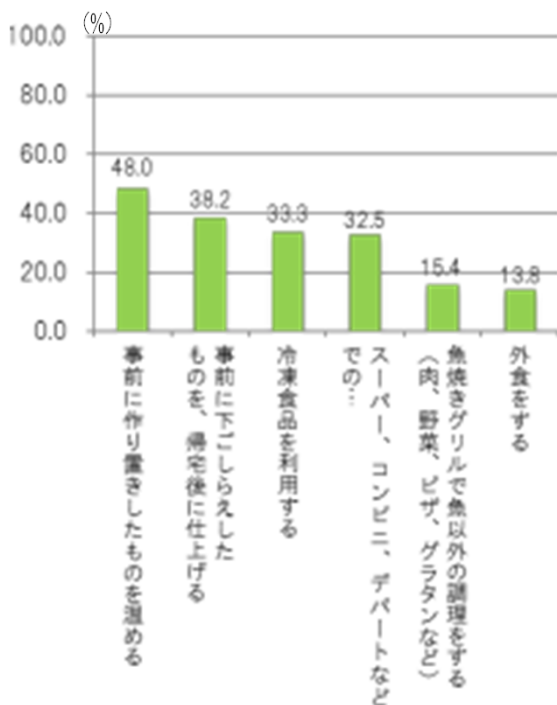


■中食は伸びている※



※ 総務省統計局 家計調査 2012

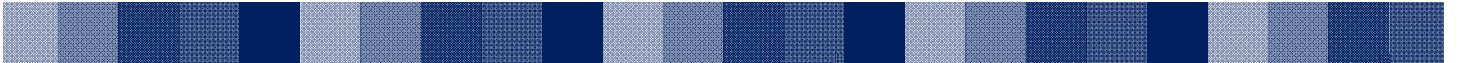
■平日、夕食の準備に利用していること※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：
2013年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

第4章

DEWKS向けの新しい住まいの提案



4-1 30代夫が抱える家事に対する3つの問題点

ここから共働き家族の中心世代である30代を取り上げ、夫の家事参加における気持ちと問題点について検証していきます。

夫について分析を進める中で、私達は育児は既にながらんでいるけれど、家事にはいまいち踏み込めていない「チョイカジパパ」に着目し、彼らの家事に対する阻害要因やつまづきポイント(お困りポイント)を見出し、それらを解決することで、「チョイカジパパ」のやる気を目覚めさせる法則を明らかにします。

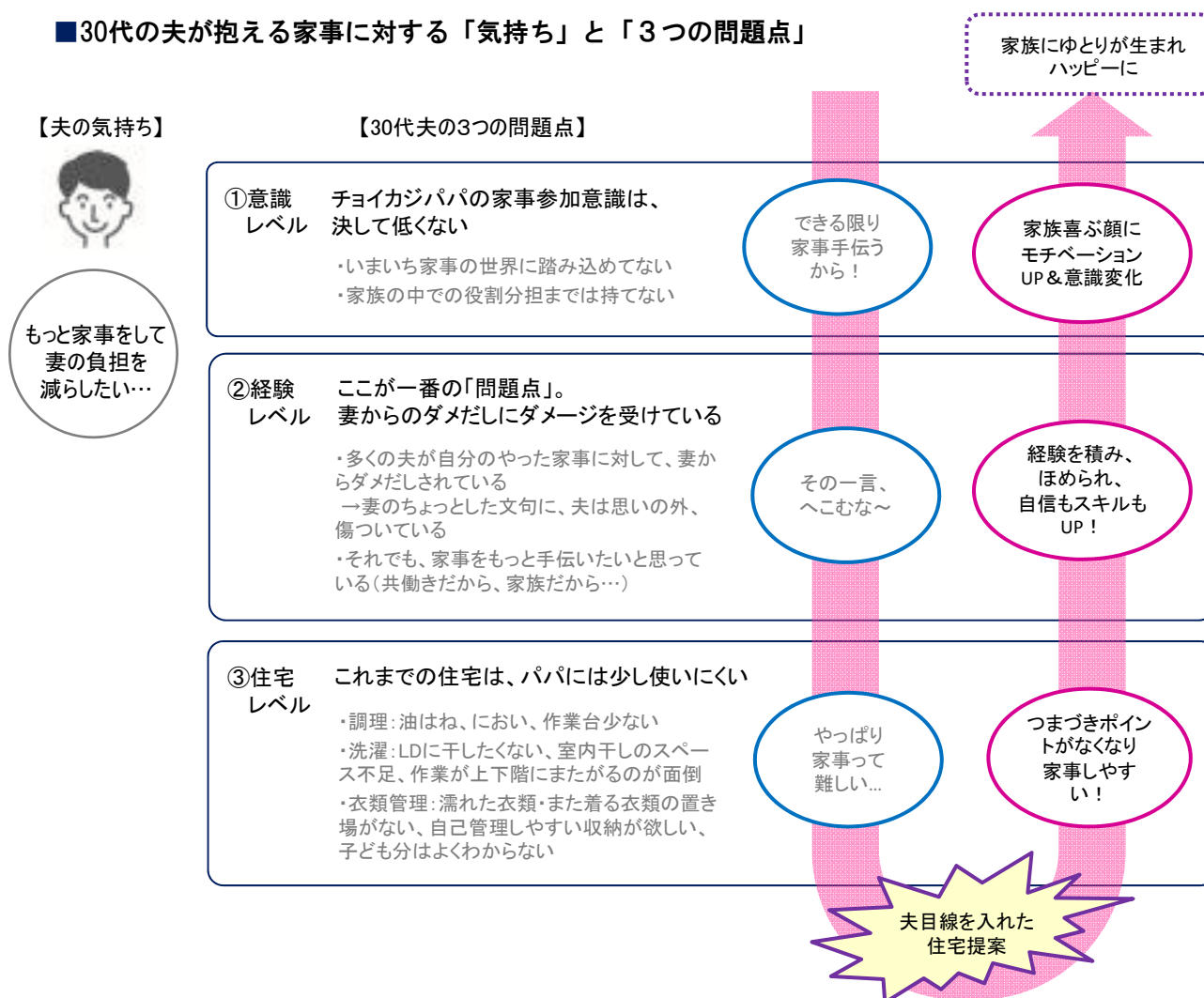
夫は手伝いたい気持ちがあれど、意識・経験・住宅レベルに問題がある

調査結果から、30代の夫が抱える家事に対する「気持ち」と「問題点」をまとめると、下図のようになります。

夫の気持ちとしては、「もっと家事をして、妻の負担を減らしたい」と思っていますが、現実には、①

意識、②経験、③住宅のそれぞれのレベルで問題があることが分かりました。これらを1つ1つ紐解くことで、夫の家事関与が進みながら、良いサイクルをまわす鍵が見えてきます。

■30代の夫が抱える家事に対する「気持ち」と「3つの問題点」



4-2 意識レベルの問題点

ここでは、30代夫の意識レベルの問題点について見ていきます。

3章で見てきた家事に対する意識を、30代夫に絞ったデータで分析したところ、「チョイカジパパ」の半数近くには、家事に対する前向きな意識があることが分かりました。

このように「チョイカジパパ」の意識レベルでは、家事への肯定的な考え方を持っていることから、「チョイカジパパ」の家事関与には、今後の可能性を感じられます。

意識

「チョイカジパパ」の半数は、家事に前向きな意識を持つ

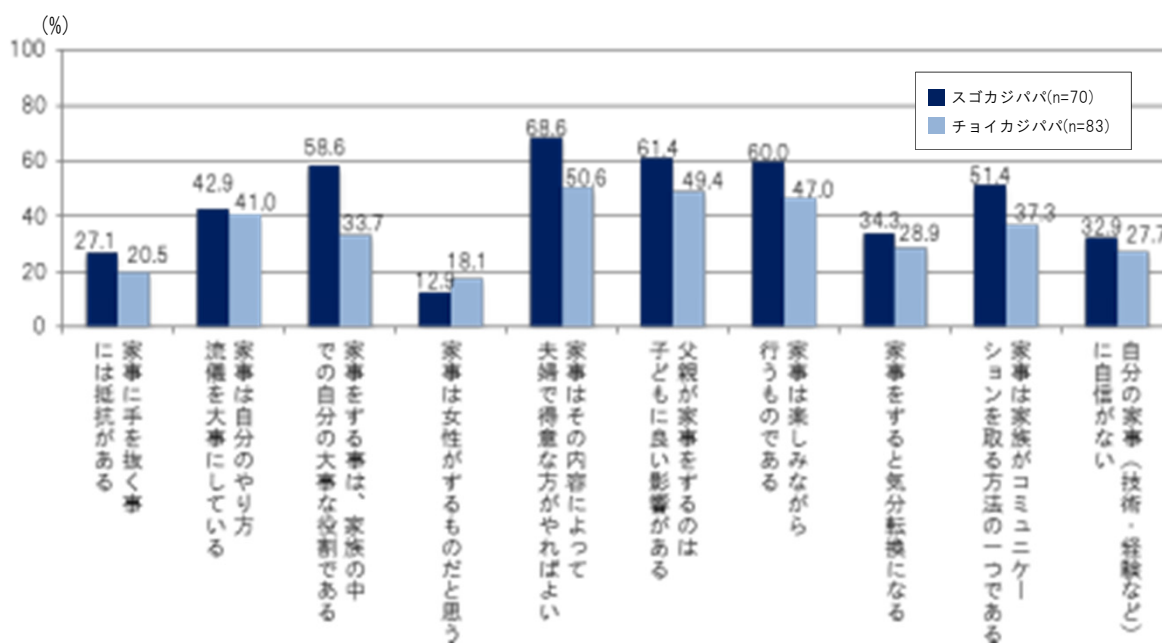


30代夫について、「スゴカジパパ」と「チョイカジパパ」を比較すると、「家事はその内容によって夫婦で得意な方がやればよい」「父親が家事をするのは子どもに良い影響がある」「家事は楽しみながら行うものである」という意見に対し、「スゴカジパパ」の方が6～7割とより多くが賛成していますが、「チョイカジパパ」も約半数が賛成しています。

このことから、「スゴカジパパ」だけでなく、「チョイカジパパ」も家事に対して前向きな考え方を持っていると言えます。

ただし、両者の意識の大きな違いは「家事をする事は、家族の中での自分の大事な役割である」という意見に表れています。すなわち、「スゴカジパパ」は58.6%がそういった意識を持ちますが、「チョイカジパパ」は33.7%に留まることから、家事の実行(経験)による自信が、このような意識づけにつながると推察できます。

■ 30代の「スゴカジパパ」と「チョイカジパパ」の家事に対する意識※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

4-3 経験レベルの問題点

ここから、30代夫の経験レベルの問題点について見ていきます。

3つの問題点の中では、この経験レベルが一番の問題点であることが分かりました。

すなわち、家事をした時、妻からダメ出しを受けた経験が、夫に想像以上にダメージを与え、それが夫の家事関与を阻害要因となり、家事に対するモチベーションが下がる…という、負の連鎖が起きています。しかしながら、妻のダメ出しを受けながらも、特に「チョイカジパパ」は、他のタイプと比べると「家事をもっと手伝いたい」という意識が最も強く、その背景には妻や家族に対する気持ちが表れています。一方、妻や子どもからの感謝や喜びの言葉が、夫のモチベーション向上に寄与することも明らかになりました。

経験 妻の「ダメ出し」で、夫の家事意欲はダウン

「家事をした時、妻からダメ出しをされた」と回答するのは、「チョイカジパパ」で最も多く(48.2%)、これに「スゴカジパパ」(45.7%)、「ノンカジパパ」(38.3%)が続きます。

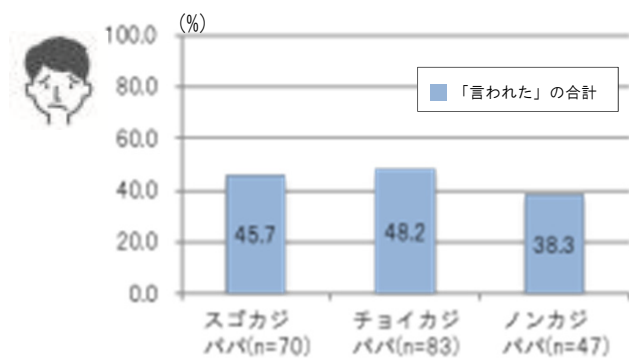
一方、「夫の家事に対して文句や不満を言ってしまう」と回答するのは、「カミワザママ」「ゼンリョクママ」「ミニмумママ」のいずれタイプでも30%以下と

なっており、夫の「言われる」の数値とはギャップがあることが分かります。

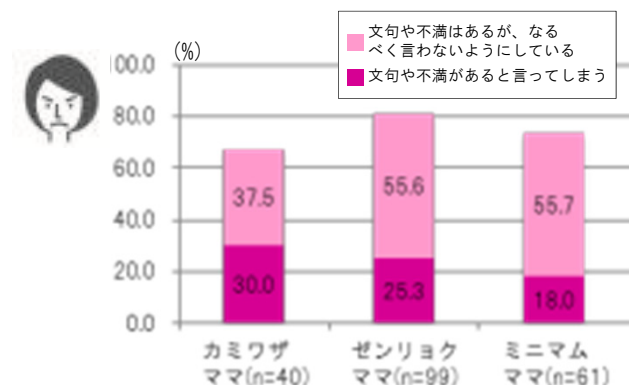
このことから、妻にとってはダメ出しつमोरいのない何気ない一言が、夫にとっては「ダメ出しをされた」と感じているのだと言えます。

さらに、夫のフリーアンサーからは、妻の言葉に夫の家事に対するモチベーションが下がる様子が表れています。

■家事をした時、妻から夫へのダメだし※



夫フリーアンサー：妻から言われた「ダメ出し」 (何をした時、何を言われて、どんな気分になったか)
皿洗いをした時、「用途の違うスポンジを使った」と責められ、悲しい気分になった。
洗濯や食器の片付け、「段取りが悪い」と言われて、やる気を削がれた。
洗濯物たたむ時、「へたくそ」と言われ、2度とやるもんかと思った。
ごろごろしてる時「手伝え」と言われてブルーになった。



妻フリーアンサー：夫に言ってしまった「ダメ出し」 (なにをした時、どんなことを言ってしまったか)
珍しく料理(スープ)を作ってくれた時、道具の扱い方や、片付けの事などの注意をした。
食器洗いをしてくれた時、「水を出し過ぎ」と言ってしまった。
洗濯を干した時、「洗濯物のつるし方がおかしい」と言ってしまった。
ごみを分別せずに捨てた時、「日頃やらないことをやると もっと困ったことになる」と言ってしまった。

「チョイカジパパ」は、本当はもっと手伝いたい！

これまで見てきたように、妻から数々のダメ出しされてはいますが、夫達はもっと手伝いたいと思っています。

中でも、「チョイカジパパ」にその傾向が最も強く出ています。

夫達は、なぜそのように思うのでしょうか。

その理由をフリーアンサーで見えていくと、「共働きだから」「妻の負担を減らしたいから」「家族だから」というパパのママや家族に対する思いやりが感じられます。

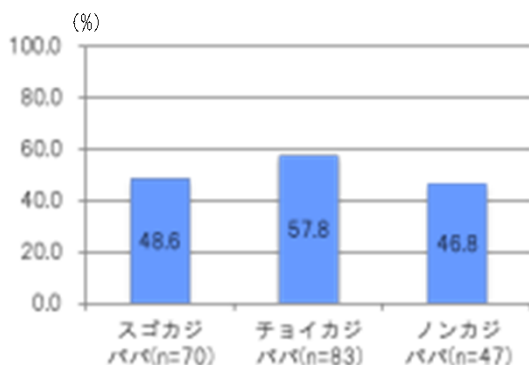
これに対し、「自己防衛・自分のため」という回答も見られ、夫の正直な気持ちが見てとれます。



こんな風になるといいけどなあ…



■家事をもっと手伝いたいと思うか※



■手伝いたい理由※

夫フリーアンサー：妻からダメ出しされながら、今よりも家事を手伝いたい理由

○共働きだから
・共働きなので、家事を互いに担うのは当然のこと
・夫婦共働きで協力出来ることは可能限り頑張りたい

○妻の負担を減らしたいから
・文句は嫌だけど、見ていて大変そうに感じるから
・めんどくさいが、大変なことは知っているの
・少しでも楽させてあげたい

○家族だから
・家事を手伝うことは、家族として当然だから
・家族だから。愛しているから
・手伝えるとみんなが助かるから

○自己防衛・自分のため
・妻の機嫌が悪くなるともっと困るから
・時間短縮して自身の時間を作る。
・やさしい夫でありたい。一応感謝はされているので

○その他
・楽しいから
・文句と言っても、許せる範囲のものだから
・普段迷惑をかけているから

妻の「ほめ言葉」でモチベーションがアップ

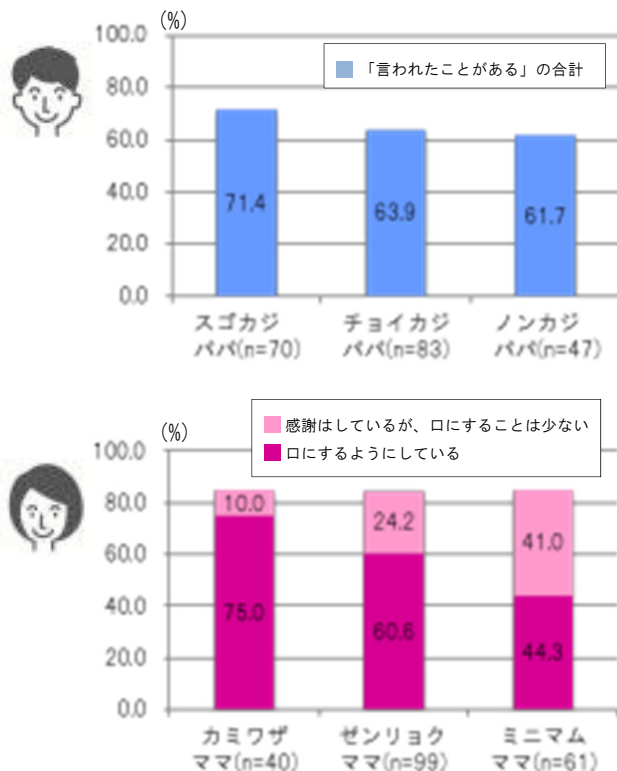
「家事をした時の妻から夫へのお礼の言葉」をみると、「スゴカジパパ」は半数近くが「言われたことがある」と回答し、妻では「カミワザママ」が最もお礼の言葉を口にしていていることが分かります。他方、「ゼンリョクママ」は、「感謝はしているが、口にすることは少ない」という人も。

このことから子育てでも「ほめて伸ばすことが大事」と言われるように、夫の家事についても、「ゼンリョクママ」のように、時には夫をほめることも大事ではないでしょうか。

フリーアンサーからも、妻や子どもなど家族からかけてもらう感謝の言葉や笑顔が、夫の家事に対するモチベーション向上に寄与している様子がうかがえます。



■家事をした時、妻から夫へのお礼の言葉※



夫フリーアンサー：妻から言われた「お礼の言葉」
（何をした時、誰に、
どんなことを言われて嬉しかったか）

朝食を作った時、妻、子どもから、また作ってほしい！と言われた。

朝早く洗濯物を干した時、寒い中ありがとうと言われた。

排水管の清掃をした時、妻に、きれいになって水の通りもすごく良くなったと言われた。

お風呂をきれいに掃除した時、家族全員に、お風呂に入るのが気持ちいいと言われた。

妻フリーアンサー
夫のやる気を起こすために、あなたがしていること、こころがけていること、口にしていていること

主人の得意なメニューを家族が好きなので、リクエストをするようにしている。

してもらったら、ありがとう！と絶対にお礼を伝える。

子どもが喜ぶという俄然やる気になる。

たまに病気になる。

4-4 住宅レベルの問題点

ここでは、住宅レベルの問題点を取り上げ、夫が家事をしやすい住まいとは、どのようなものなのかを検討します。

その方法として、家事関与率が最も高い30代フルタイム共働き家族の「スゴカジパパ」に着目し、日頃から家事・育児をしているからこそ気づく住まいの問題点を考察します。

「スゴカジパパ」が感じているそれら問題点を解決し、家事のお困りポイントがなくなれば、夫達誰もが家事をしやすい住まいになります。すなわち、家事をする意識がありながら、今は思うように関わっていない「チョイカジパパ」の家事関与が進む可能性が広がることでしょう。

思うように家事に関わっていない、「チョイカジパパ」

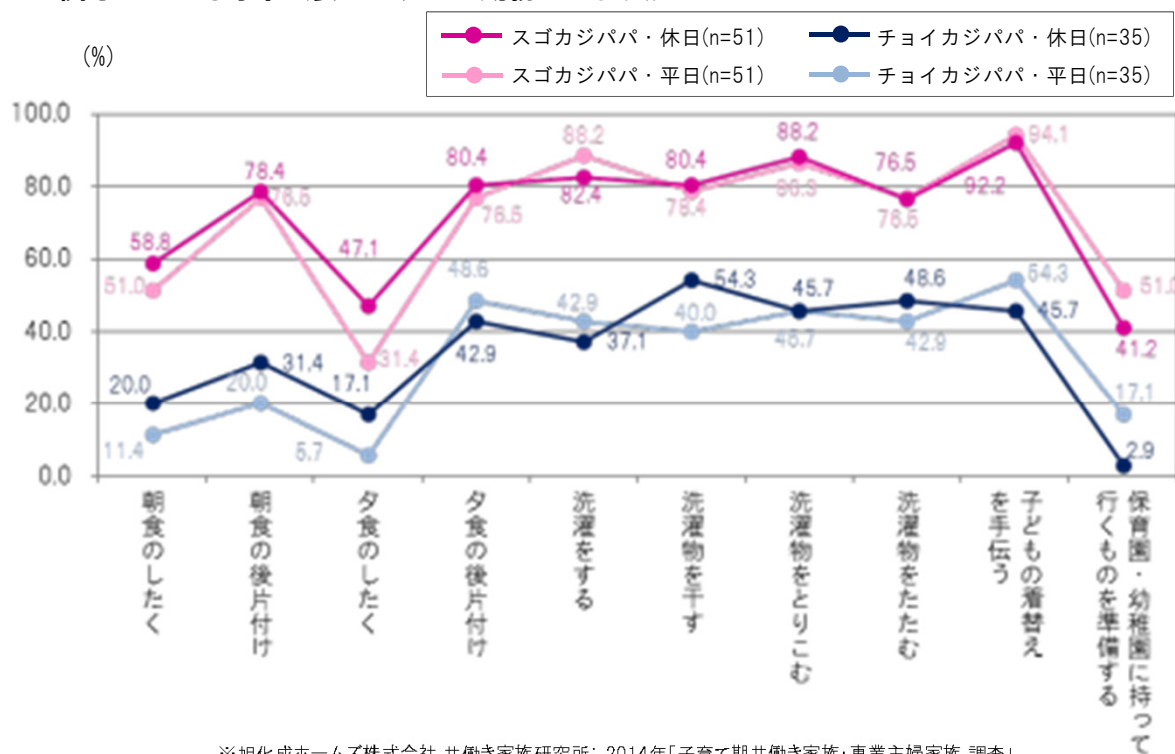


「チョイカジパパ」は、「スゴカジパパ」に比べて、平日、休日ともに家事全般(調理・洗濯・衣類管理)に関わっておらず、洗濯は5割前後がしていますが、「朝食のしたく」や「夕食のしたく」は2割程度に留まります。このように「チョイカジパパ」が実際に関わる家事が限定されるため、家事を「やってい

ない」ため、夫(男性)ならではの家事における「つまづきポイント」も自覚できていないと思われます。一方、平日・休日を問わず、調理・洗濯・衣類管理の全般に5～9割が関わる「スゴカジパパ」は、日頃家事をする際、住まいの「つまづきポイント」を感じていると考えられます。

以上より、「スゴカジパパ」のお困りポイントを解決することが、他の夫にとっても効果的であると考えられます。

■関与している家事（妻フルタイム勤務の30代夫）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

4-5 マルチアイランドキッチン

調理

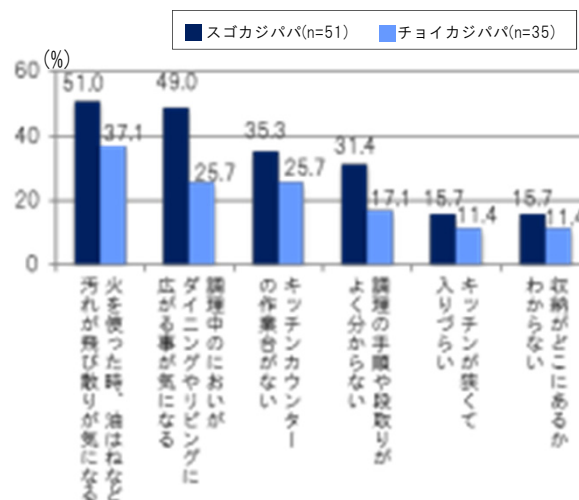
これまでの住宅で、夫が使いにくいと思うところ



「調理」における「お困りポイント」のワースト5を見てください。

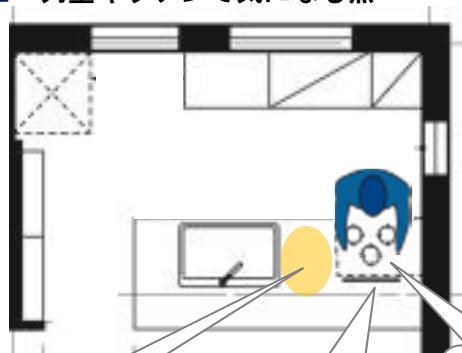
- ・1位は「油はね」です。これまでの対面キッチンやペニンシュラキッチンによるオープンなLDKの場合、特に男性は炒め物に手を出しやすいので、油はねが問題となります。
- ・2位の「調理中のおいおいの広がり」は、壁付けキッチンの場合、おいおいの広がり避けられますが、LDに背を向けることになり、家族とのコミュニケーションが取りづらいことが難点です。
- ・3位の「作業台がない」は、通常、シンクとコンロの間しかないため、要領良く調理を進めないと、作業台が調理道具や食材でいっぱいになり、使い勝手が悪くなるのが悩みの種です。
- ・4位の「段取りが分からない」は、調理の経験が少ない場合に、課題となる点です。
- ・5位の「キッチンが狭い」はキッチンの動線が行き止まりのことが多く、複数で入ると狭く感じられます。同じく5位の「収納が分からない」は、キッチンの収納は妻が管理することが多いため、普段、収納の出し入れをすることのない夫にはブラックボックスと言えます。

■「調理」における「お困りポイント」ワースト5
(妻フルタイム勤務・30代夫)※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所:
2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

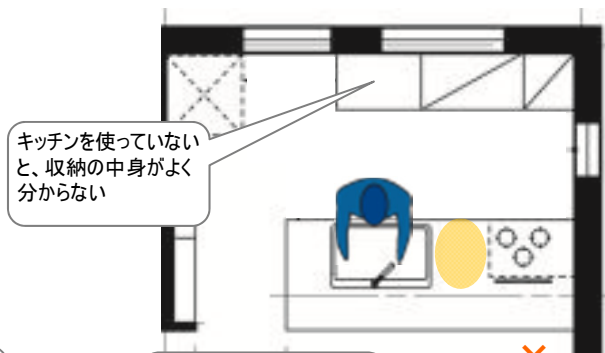
■一列型キッチンで気になる点



作業台がシンクとコンロの間しかない

ダイニング方向に油はねする

調理中のおいおいが、リビング・ダイニングに広がる



キッチンを使っていると、収納の中身がよく分からない

片方からしか入れないため、誰かが入っていると、狭くて入りづらい(行き止まり動線)

マルチアイランドキッチンによる解決方法

マルチアイランドキッチンは、シンクとコンロが分かれた、1人でも2人以上でも作業しやすいキッチンです。シンクを対面させ、コンロは壁付けなので、対面キッチンの要素を取り入れながら、コンロを使うときには壁に向かうので、油はねやにおいを気にすることなく、大胆に調理ができます。また、作業台が充実しているので、道具をすぐに片づけなくても良く、気軽に調理できます。

壁付けのコンロカウンターとレンジフード



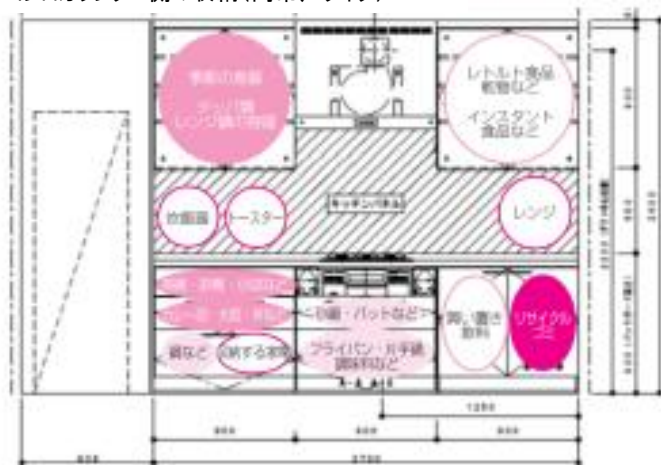
シンクカウンターのまわりをぐるっとまわるので、行き止まりがなく、家族みんなが出入りしやすいキッチンです。また、レンジフードを従来より50mm高く設置し、男性でも頭を気にせずに調理できるよう配慮しました。さらに収納面では、ロング吊戸棚とし収納量を確保しました。



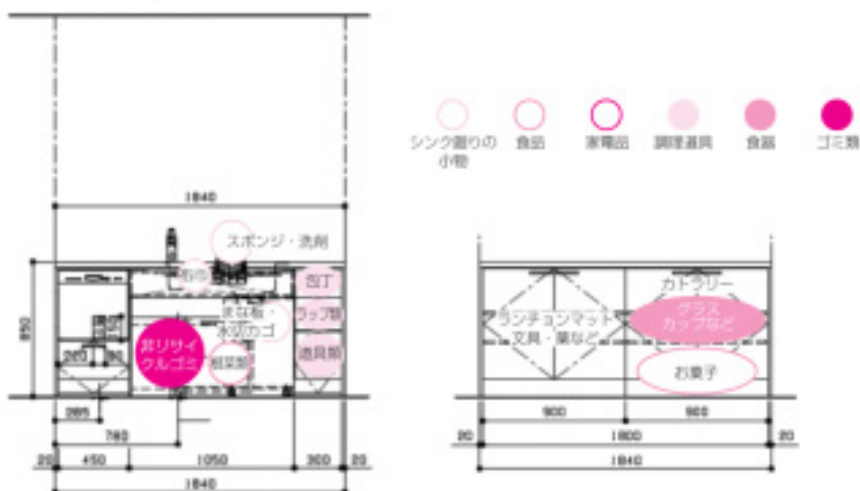
マルチアイランドキッチンの収納

食器棚を兼用するキッチンなので、従来のキッチンセット＋食器棚と同等量の収納量を確保しています。
コンロカウンター側は、引き出し式の収納が設けられ、中が見やすく、道具も探しやすくなっています。

コンロカウンター側の収納(両吊戸タイプ)



シンクカウンター側の収納



さらにパントリーがあると、買い置きの水・食料品や非常食がたっぷりストックできます。



共働き家族研究所モニターと一緒に開発したキッチン

マルチアイランドキッチンは、シンクとコンロが分かれたキッチンのため、従来の一列型キッチンとの使い勝手の違いを検証することを目的として、共働き家族研究所モニターの協力を得て、実際に調理を行い、機能面（作業性、使い勝手、動線、収納）を中心に確認をしました。

検証する想定シーンは、平日夜の1人での調理、休日昼の2～3人での調理の2パターンとしました。



■動線の検証結果

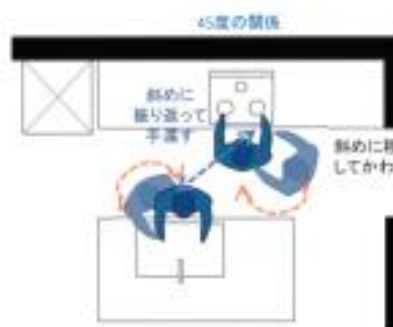
①1人での調理

- ・1人の場合、シンクとコンロの位置がずれているので、180° 振り返る必要がなく、120°～135° 位の振り返りがちょうど良い
- ・通路幅850mmだと、半歩も歩かずに楽に移動ができる



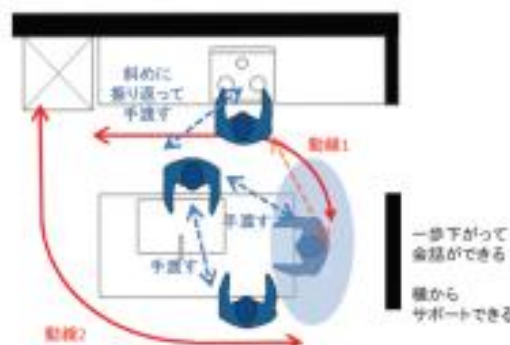
②2人での調理

- ・通路幅 850mmでも、回遊動線の緩衝帯により、互いの体をずらしてかわせるため、窮屈に感じず、作業への支障も少ない
- ・シンク側とコンロ側の切った野菜を渡すなどのやり取りも、で、斜めの振り返りでスムーズにできる（シンク-コンロの45度の位置関係が効果的）



③3人での調理

- ・シンクを中心に家族一緒に作業する楽しいシーンが期待できる。
- ・まわれる動線で、人数が3人になっても、状況に応じた動線が選べ、出入りがしやすい



4-6 ランドリーサンルーム

洗濯

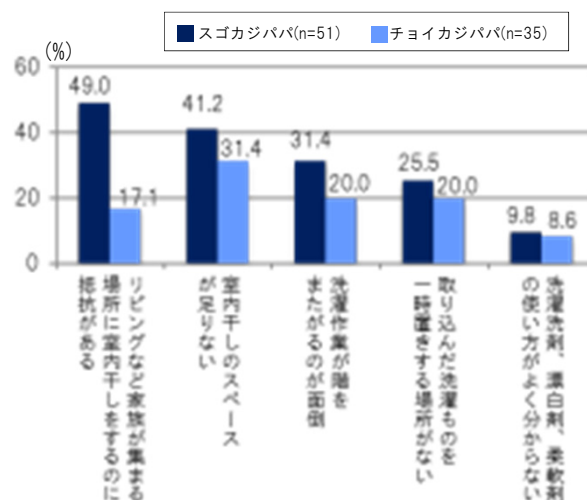
これまでの住宅で、夫が使いにくいと思うところ



「洗濯」における「お困りポイント」のワースト5を見ていきます。

- ・1位の「リビングなど家族が集まる場所での室内干しに抵抗がある」については、これまでの住宅では、日当たりのよいリビングに室内干しをすると、リビングでくつろぎたい時に、洗濯物が目に入るとその気分が削がれたり、片づけなきゃと追い立てられるという意見が聞かれます。
- ・2位の「室内干しのスペースが足りない」は、小さな子どもがいる共働き家族の場合、洗濯物の量が多いにも関わらず、洗濯できる時間は限られているため、一度になるべくたくさん洗濯をしたいという切実さがありますが、まとめて室内干しする場所は、当初から想定しないとつくれません。
- ・3位の「洗濯作業が階をまたがるのが面倒」は、洗濯をするということは、1階の洗面に洗濯機をまわす、2階の物干し場で干す、たたむのは1階リビング、しまうのは2階の個室…と何度も上下階移動が生じ、移動の負荷がかかる家事です。
- ・4位の「取り込んだ洗濯物の一時置き場がない」は、後でたたもうと、取り込んだ洗濯物を一時置きする場がなく、洗濯物でソファが埋まっている…というのもよくある光景です。
- ・5位の「洗剤の使い方が分からない」は、最近は洗濯洗剤だけでなく、除菌のための漂白剤や香りを楽しむ柔軟剤・加香剤など複数のものを使う傾向にあるため、慣れていないと迷ってしまうのも仕方ないかもしれません。

■「洗濯」における「お困りポイント」ワースト5 (妻フルタイム勤務・30代夫)※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：
2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」



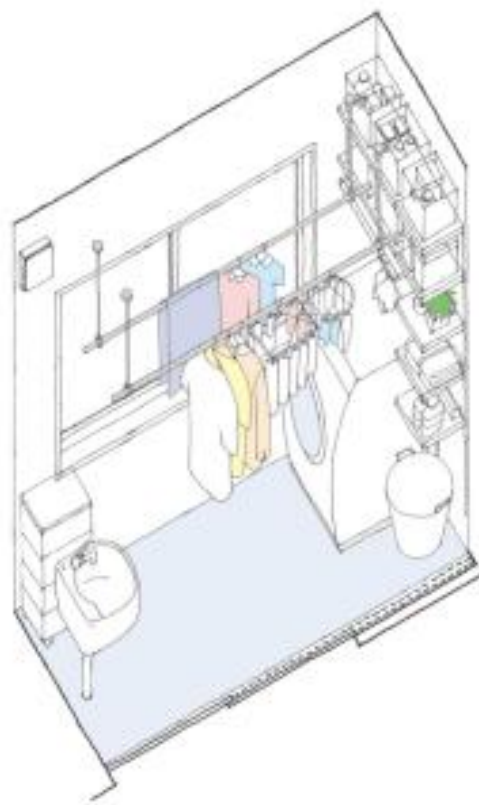
ランドリースランルームによる解決方法

ランドリースランルームは、洗濯機を設置した室内干しスペースです。家族4人分の洗濯物がまとめて干せるよう、竿が2本設置しています。

また、湿度を排出するための換気扇を設け、洗濯物の湿度を飛ばして乾かすための送風機や除湿機などの設備を補完すると、夜洗濯でも洗濯物が乾燥しやすくなります。

洗剤や洗濯グッズなどの収納も必須です。

なお、洗面所と階が異なる場合は、洗濯流しを設置すると、洗濯物の下洗いなどがしやすく、便利です。



ランドリーサンルーム：住宅総合技術研究所での実証実験

夜洗濯をした場合、家族4人分の平均的な洗濯物(6kg)が、どのくらいの時間で洗濯物が乾くのかを検証するため、設備の条件を変えた5パターンを想定し、季節としては最も洗濯物が乾きにくい冬季に実証実験を行いました。

■夜洗濯×室内干しで洗濯物を乾かすための2つの条件

実証実験より、洗濯物を乾かすためには、①洗濯物の乾燥を促す風を当て、②洗濯物から飛んだ水分を含んだ空気を換気扇で排出する、という2つの条件が必要だということが分かりました。

つまり、乾燥を促す条件を整えれば、特に夜に洗濯をする場合、必ずしも日射が必要ではないことがわかります。従って、室内干しの場所は、南側配置にはこだわらなくても良く、プランニングの制約を受けにくくなります。ただし、日射が欲しい場合には、南側配置など設計上の配慮が求められます。

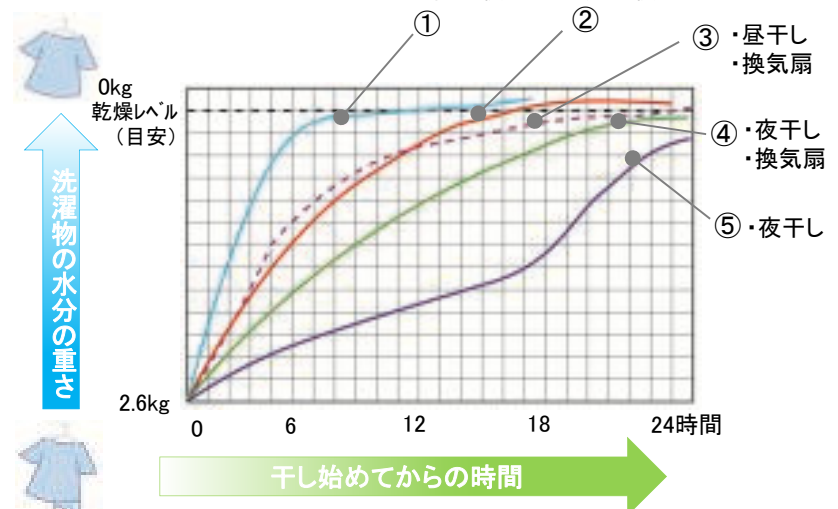
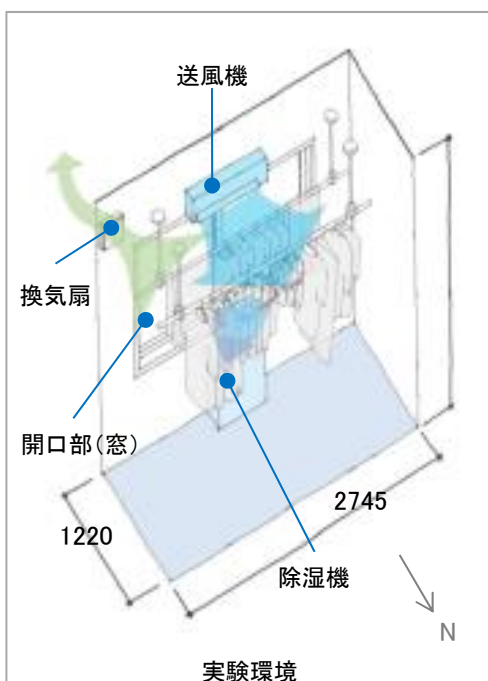


4人家族の平均的な洗濯物6kg



■実験結果

乾燥時間の早い順に①、②、③、④、⑤となりました。この結果から、湿度を排出する換気扇に、乾燥を促す除湿機や送風機を併用すると、乾燥時間が短くなると言えます。



実験期間 2～3月

外気温6.3～16.9℃・湿度43～53%

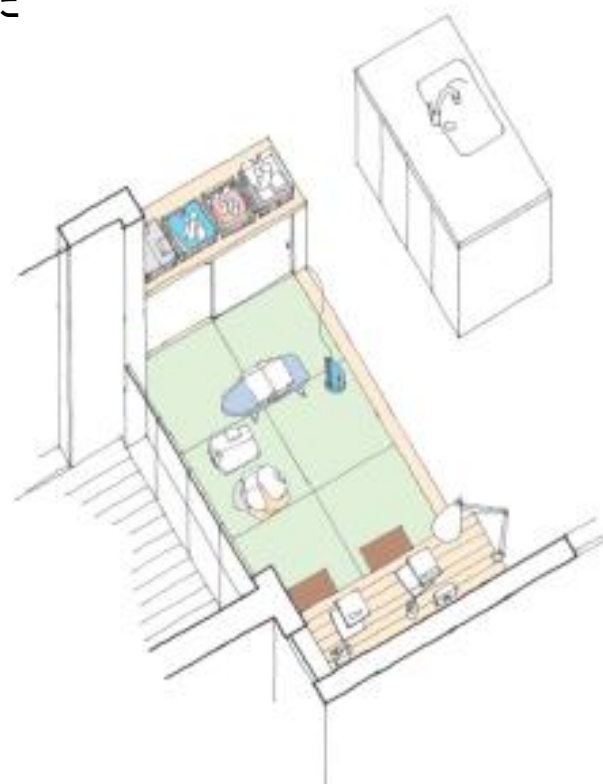
室内気温15℃・湿度70%

洗濯物6.0kg

タタミコーナーがあると一層便利に

ランドリーサンルームの近くにタタミコーナーを設置すれば、乾いた洗濯物の一時置きやたたみ作業、アイロンがけがしやすくなります。

さらに、このタタミコーナーを床上げにすれば、その下に収納スペースも確保でき、一石二鳥です。



タタミコーナーは、洗濯家事のためだけではなく、他にもいろいろな用途に使うことができます。

例えば、赤ちゃんのおむつ交換・授乳や、幼児のおもちゃ遊び・着替えの物を収納スペース、子どもの勉強コーナーなどにもなります。

さらに、パパが横になってくつろぐなど、タタミならではの楽しみ方を味わうのも良いでしょう。



赤ちゃんのおむつ替えと幼児の昼寝



子どもの勉強とおもちゃ遊び

4-7 デイリークローゼット

衣類管理

これまでの住宅で、夫が使いにくいと思うところ



「衣類管理」における「お困りポイント」のワースト5を見ていきます。

・1位「帰宅後、濡れた衣類・また着る衣類・バッグなどを一時置きする場所がない」は、これまでの住宅では、衣類やバッグなど携帯品の一時置き場を設けることは、まだ少ないですが、濡れた衣類やすぐに洗わずに何度か着る衣類の置き場に困り、とりあえず収納の取っ手にハンガーでかけておくなど、対処療法が見受けられます。

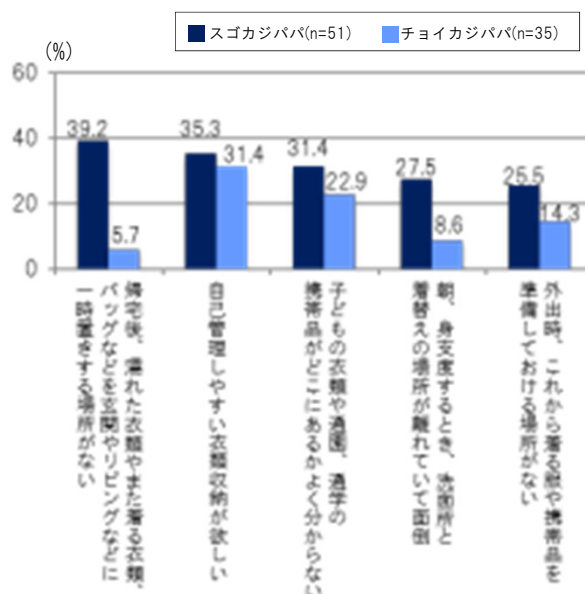
・2位「自己管理しやすい衣類収納が欲しい」は、いまどきの夫は、衣類管理を妻任せにするのではなく、自分でする人も増えているので、自ら管理しやすい収納へのニーズも高まっているのでしょう。

・3位「子どもの衣類や携帯品がどこにあるか分からない」は、共働き家族の場合、夫が子どもを保育園に送るケースも多く、子どもの着替えに関わるのも日常のシーンです。その際、子どものものがどこに何があるかを把握していること、また一緒に着替えるために、各個室にバラバラに衣類があるのでなく、集中収納で着替えがしやすいことが、忙しい朝にスムーズに外出準備をするためのポイントとなります。

・4位「朝の身支度時、洗面所と着替えの場所が離れていて面倒」は、朝の忙しい時には、身支度動線が階をまたがずにまとまっていると、スピーディに身支度ができます。

・5位「外出時これから着る服・携帯品を準備しておける場所がない」です。衣類の一時置きという視点では、事前にコーディネートした衣類を掛け置きできるスペースがあると、重宝します。

■「衣類管理」における「お困りポイント」ワースト5（妻フルタイム勤務・30代夫）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：
2014年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」



デイリークローゼットによる解決方法

デイリークローゼットは、家族の日常の衣類を集中管理する収納です。これにより、家族の洗濯物を各個室に配らなくてもよくなります。デイリークローゼットの中は、仮置きスペース・コーディネートウォール・収納ゾーンの3つで構成します。さらに、パパ、ママ、子どものそれぞれの専用領域を設けることで、自分で管理しやすい収納となり、かつパパにも子どもの衣類や携帯品がどこにあるかが一目瞭然です。

●仮置きスペース：

一度着てまた着る衣類や外出時の携帯品などの一時置き場



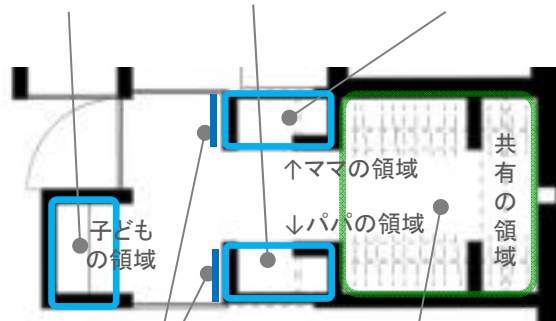
(子どもイメージ)



(パパイメージ)



(ママイメージ)



●コーディネートウォール：

明日着る衣類を
コーディネートして掛け置き
する場所(壁面を活用)



(ママイメージ)

●収納ゾーン：

洗ったきれいな衣類を
管理する場所



4-8 プロトタイププラン

マルチアイランドキッチン、ランドリーサンルーム、デイリークローゼットの3つの空間に、さらにタミコーナーを加えて構成した共働き・子育て家族向けに考えたプランです。

■ 2階建・2階リビングプラン

都市型住宅を意識した2階リビングプランです。

2階にLDKをまとめ、さらにランドリーサンルームとタミコーナーを設け、家事動線をワンフロアにまとめました。

さらに2階リビング脇にそのまを設け、外部空間とつながりながら、くつろげる空間としました。



1階には、デイリークローゼットと洗面所・浴室、そして個室をまとめて配置しています。

玄関近くの洗面とデイリークローゼットは、外出時の身支度や帰宅時の着替えがスムーズにできます。



1 階床面積	64.06㎡	(19.6坪)
2 階床面積	57.27㎡	(17.3坪)
建築面積	67.31㎡	(20.4坪)
延べ床面積	121.93㎡	(36.9坪)
総面積	132.08㎡	(40.0坪)

■ 2階建・1階リビングプラン

郊外型住宅を想定した1階リビング
グプランです。

2階には、ランドリーサンルームとタ
タミコーナー、そして個室をまとめ
ました。

南側のランドリーサンルームは、日
当たりが欲しい場合にピッタリで、
取り込んだ洗濯物を片づける時、
すぐ隣のタタミコーナーが重宝し
ます。



2階

1階のLDKの近くにデイリークロー
ゼットと洗面所・浴室をまとめて配
置しました。朝の身支度の時や外
出先から帰宅した時に、リビングと
の行き来がしやすいプランです。
なお、リビングはダウンフロアで、
落ち着き感を演出しました。



1階

1階床面積	63.47㎡	(19.2坪)
2階床面積	56.37㎡	(17.1坪)
建築面積	63.47㎡	(19.2坪)
延べ床面積	119.84㎡	(36.3坪)
総面積	119.84㎡	(36.3坪)

付録

(appendix)

付録-1 入居宅事例集

付録-2 コネタ集

<入居宅事例集>

いまどきDEWKSに迫る



入居宅事例①（茨城県 K邸）

Case Study

料理好きで休日シェフの夫

夫33歳、妻33歳、2歳の男の子の3人家族。

夫婦ともにフルタイム勤務で、双方の実家とも離れて暮らしています。仕事の休みは、夫が日曜日と月曜日、妻が火曜日と水曜日です。

夫の担当する家事は、夫婦ともに出勤する日は主に洗濯、食器洗い、ゴミ出し。自分が休みの日にはこれに料理が加わります。

夫は、中学生の頃から休みの日には昼ごはんは自分でつくっており、大学生になってから結婚するまでは一人暮らしをしていたので一通りの家事は経験していました。

結婚後の家事については、誰が何をやるという役割分担を明確に決めたわけではなく、仕事の休みが夫婦でずれていることを活かしてできることをできる方がやるという感じで家事をしています。

キッチンには料理好きの夫に合わせて、調理台の高さを標準より高めの90センチにしていますが、妻も使いやすく満足しているそうです。

対面式ではなく、あえてダイニングとの仕切りのない壁付けキッチンにしたことで自然と家族みんなが調理に参加するようになりました。



■プランの特徴

- ・2階がリビング + キッチンなので、ワンフロアで一通りの家事ができます。
- ・ダイナミックでカッコいい空間にしたかったので、壁付けキッチン + ダイニングを 選びました。
その結果、対面キッチンのように空間が遮られないので、子どもも自然に料理に参加してくれます

入居宅事例②（広島県 M邸）

Case Study

つかずはなれず親子の「いい関係」

Aさん一家は、夫のAさん、週5日パート勤務をしている妻、小学4年生の娘の3人家族。妻はフルタイム勤務ではないものの、実家の近くに住む、いわゆる「近居」の共働き子育て家族です。

実家の母は今も働いており、平日はそれぞれの世帯で生活するスタンスですが、金曜日の夜は妻の実家で5人揃って夕食を食べます。料理担当は妻の父。夕食後、Aさん夫婦は帰宅しますが娘さんはお泊まり。大好きなおじいちゃん、おばあちゃんの家泊まるのを毎週楽しみにしています。Aさん夫婦は自宅に帰ってゆっくりするのもよし、寄り道してデートするもよし、二人の時間を過ごします。

夫婦の時間をなかなかとれない子育てファミリーにとってこうした時間は貴重です。一方、妻の両親も週一回の孫娘との時間を楽しんでいるとのこと。子どもとの賑やかな時間と大人だけの静かな時間を、子世帯、親世帯ともに程よく持てるとするのは幸せなことです。

Aさんは「地元根をはって暮らしたい」という気持ちから、今の職場に転職。近所の人も地元志向の人が多くて話も合い「地元ライフ」を満喫しています。また、月1回は妻の実家で、学生時代のアルバイト経験を活かして自慢の広島風お好み焼き



づくりに腕をふるいます。

Aさん一家と妻の両親のように、ストレスない『近居』の秘訣はなんでしょうか。それは、Aさん一家が『近居』の理由としてあげているように「お互いの緊急時に助け合う」という思いを共に持つことかもしれません。どちらかが全面的に頼るのではなく、基本的な家事は家族内で完結させ、お互いのプライバシーは尊重する。とはいえ、親世帯が元気な場合、子育て共働き世帯が親世帯に頼ることが多いのが現実。ギブアンドテイクを忘れないことも大事です。例えばAさん夫妻は、休日には両親を買い物に連れて行ったりするそうです。

そして、近居しているのが義両親の場合は、義理の親子同士が気さくに付き合えるかどうかポイントでしょう。Aさんの場合は、近居を始める前に一時期同居していたことがお互いの距離を縮めたようです。子世帯、親世帯、それぞれの夫婦、そして親子の仲がよければこそ、面倒を押し付け合うのではなく「助け合う」という気持ちも生まれるのではないのでしょうか。子どもにとってもこうした環境は、助け合いや年長者への気遣いを学ぶ良い機会となることでしょう。



入居宅事例③（東京都 S邸）

Case Study

収納量たっぷりの機能的なキッチン

共働きの夫婦と女の子の3人家族。夫婦共にIT関連の仕事で、自宅で仕事しています。

ご主人は1F、奥様は2Fが仕事部屋。

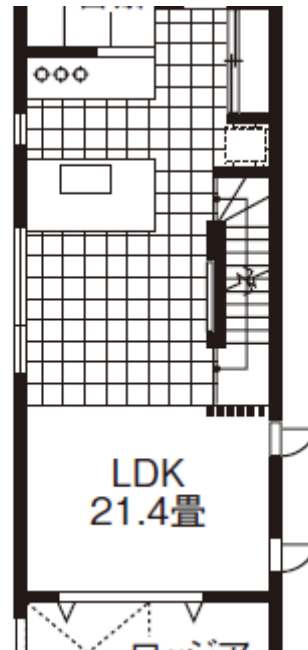
自宅で打ち合わせなど、仕事関係の来客も多く、お客様をLDに通すこともあり、給茶時も打ち合わせが途切れずに済むことから、当初から対面キッチン以外は考えていませんでした。

シンプルな空間の心地よさを大切にしたいので、モノは全て隠して収納することが希望でした。そこで、位置、サイズ、しまい方など、モノを想定した収納計画を徹底して検討しました。

キッチンは、シンクとコンロの分かれた二列型のキッチンを採用。当初、細長い敷地のスペース上の制約からのものでしたが、思いのほか収納量がたっぷりです。広いカウンターも使いやすいです。

一方、食器棚や家電収納は、キッチンメーカーのセットものの収納では満足するものがなく、だいぶ悩みました。コーヒーメーカーなども、コンパクト用なので大型でなかなかピッタリの収納が見つからず。結局、冷蔵庫横に物入を作り、扉をスライドドアに、収納するモノに合わせて可動棚を設置するなど、カスタマイズすることに。

プラン作りの時には、多岐に渡り悩みましたが、マルチアイランドキッチンだけは、唯一早くに決まっていた。



収納量たっぷりの機能的なキッチン
右手奥は、妻の仕事部屋の床上げ和室



白の床タイルで、明るいダイニングキッチン

入居宅事例④（東京都F邸）

Case Study

家事動線と+NESTを一直線に配置

夫婦と小学高学年の男の子と幼稚園の女の子の4人家族。夫婦ともに医師の共働きで忙しい毎日。

夫は仕事から、日常の家事・育児のサポートはなかなか難しいので、妻は家にいる時は家事や子育てに、フル回転に。その時間をいかに効率的に使うかは、とても大事なポイント。子どもの様子を見ながら、家事がしやすい間取りを希望していました。

新居は、ユーティリティ・キッチンと+NESTコーナーとが横につながっているので、何をしても子どもの様子がわかり、家事をしながらコミュニケーションがとりやすく、大満足です。ユーティリティに洗濯機、室内物干金物があるので、ここで洗濯→物干しが完結。

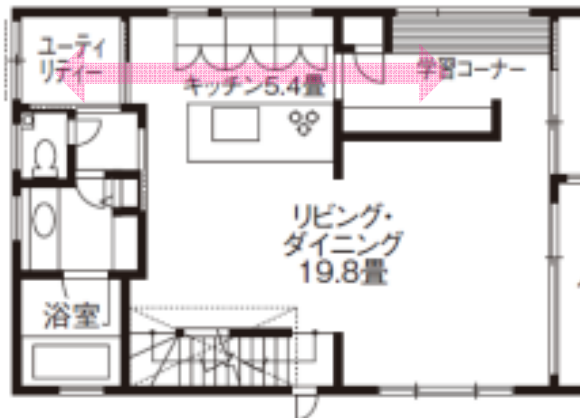
朝洗濯して、天気を気にせず干したままにできるので、大助かり。

縦格子付きの窓なので、開けたまま留守にしても、安心して通風がとれます。

洗面所に洗濯機がないことで、洗濯関連グッズもユーティリティへ収納されるので、散らかりがちな洗面所が片付くのも嬉しいです。

キッチンとユーティリティの床仕上げは、サーモタイルで揃えました。当初タイルが掃除しやすいそうかなとキッチンだけのつもりでしたが、インテリアアドバイザーのアドバイスでユーティリティも一体で揃えることに。

キッチンと同じ床材でつながることでより広がりを感じ、足元からの冷たさも感じにくく大正解。白いタイルで、とても明るく清潔感のある空間になりました。



ユーティリティ、キッチン、+NESTコーナーが一直線でつながり、子供の様子を見ながら家事ができる



ユーティリティでは室内干しができるよう工夫。花粉や雨を気にせず洗濯ができ便利

事例入居宅紹介⑤（神奈川県I邸）

Case
Study

家事時間を短縮して家族の時間を充実

30代ご夫婦と長女7歳・長男3歳、次男0才の5人家族で住まうIさん。住まいに求めたのは、家事がしやすい間取り。洗濯、物干し、衣類収納までの流れを2階にまとめることで、家事時間を短縮しています。1階のキッチンもワークトップが広いオリジナルのものを選ぶことで、子どもたちが自然と手伝ってくれる空間となっています。家事時間を短縮することは勿論、家事スペースの近くに子どもの居場所をつくることで、子どもと一緒に過ごす時間も増えるように工夫しています。



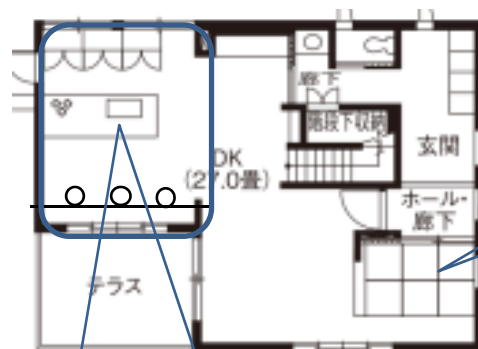
間取りの工夫で皆が生き生きと毎日を過ごせるように



洗濯物干しとコミュニケーションを同時に

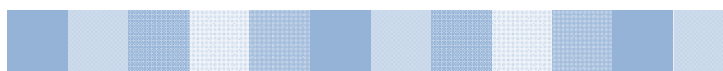


お子様も積極的にお手伝いをするキッチン



＜コネタ集＞

親・時間・子ども



1 「近居」の親がフルタイム共働き家族を支える

子ども世帯と親世帯が、同居や二世帯住宅ではなく「別居」でありながら、15分以内で行き来できる距離に住んでいることを「近居」とします。同居や二世帯住宅を希望するのではなく、こうした「近居」を望む家族が増えています。その背景には、共働き世帯の増加があるでしょう。普段は、自分たちのことは自分たちで済ませ気兼ねなく暮らしつつ、「いざという時」に頼れる存在として親を意識しているようです。

親

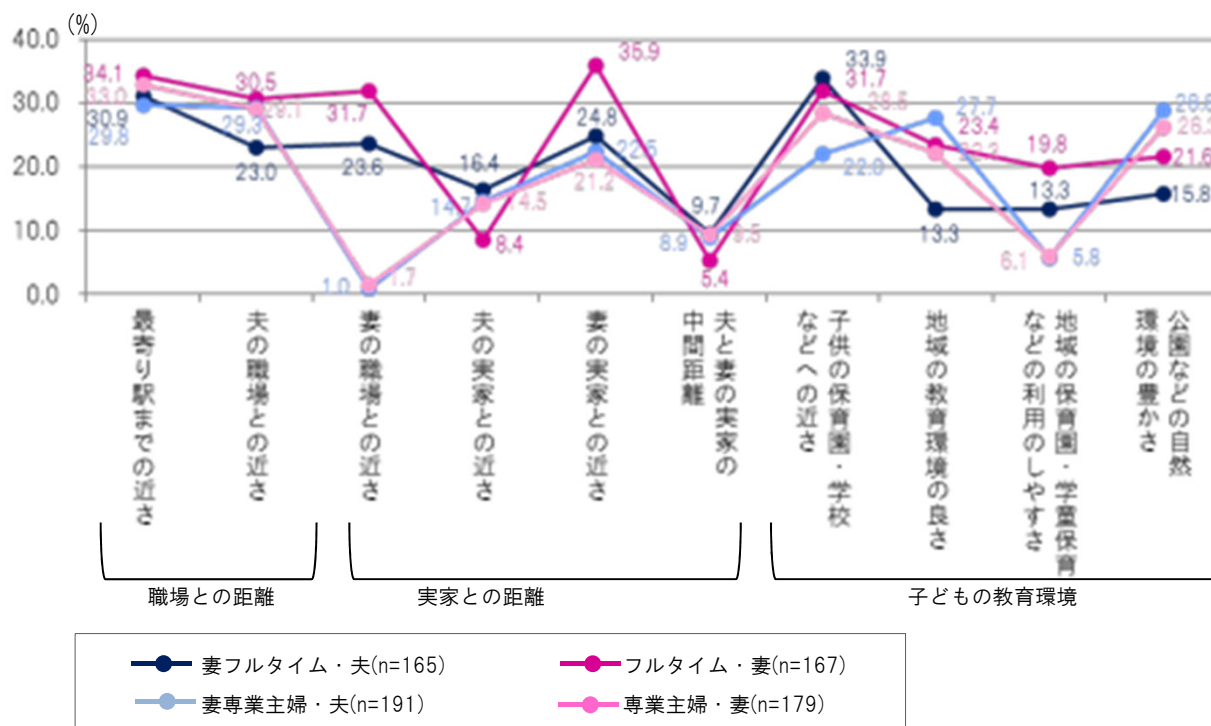
近居を望む、フルタイム共働きの妻

2012年の調査から、現在の居住地の選択にあたり重視した点をみると、フルタイムで働く妻は夫に比べて様々な条件を吟味していますが、特に「妻の実家との近さ」つまり自分の親との距離を重視していることが分かります。

どうしても抜けられない仕事で遅くなった時の保育園のお迎えや、子どもが病気になった時の看病など、育児面で親の援助を受けられということ、しっかりと仕事に向き合えるという点がメリットといえるでしょう。



■居住地選択の理由※



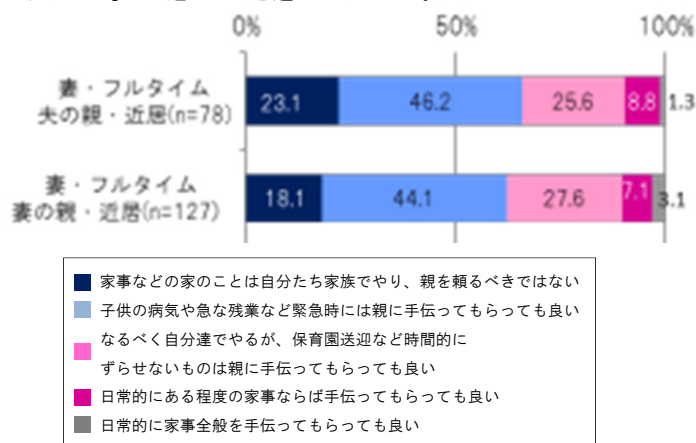
※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所:1989年「共働き家族・専業主婦家族 比較調査」 2012年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

親の育児支援が定着している

博報堂生活総合研究所の調べによると、25年前に比べ孫の世話をする妻の親が増えています。常に親の援助を求めているわけではないようです。旭化成ホームズの2012年の調査から、近居を選択したフルタイムで働く妻の「親の協力・支援に対する意識」をみると、日常的に手伝ってもらって良い、という考えは1割程度に留まり、7割は緊急時あるいは時間的にずらせないものつまり「いざという時」に手伝って欲しいと考えていることが分かります。一方、親も高齢であり、「いざという時」に頼れる子どもが近くに住んでいるということは安心材料といえます。どちらかが全面的に頼るのではなく、「いざという時」に助け合える場所に暮らしたというのが、いまどきの住まい選びの形なのかもしれません。また、フルタイム共働き家族では、専業主婦家族に比べて、「近居」する妻の親と、「積極的に付き合いたい」と考える夫が多い傾向にあるようです。こうしたことから、近居の親がフルタイム共働き家族の夫婦を支えているといえるでしょう。

■ 親の協力・支援に対する意識※

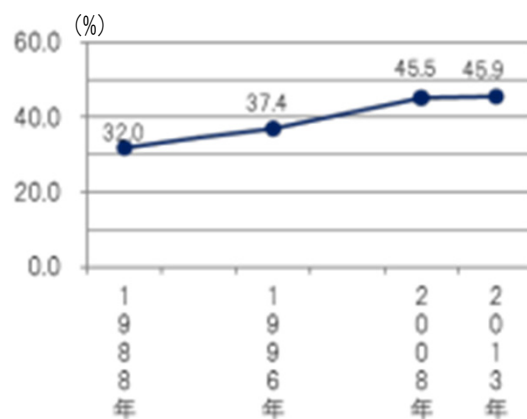
家事行為と親との関係について、あなたの考えに近いものを選んでください。



※旭化成ホームズ株式会社 2012年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

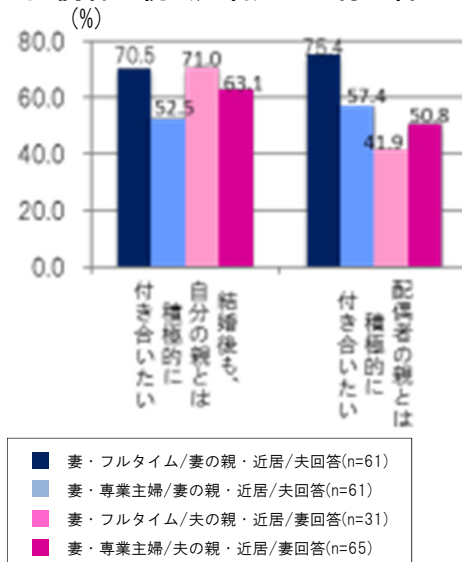


■ 日常における妻の親の援助(子どもの世話をする)※



※出典「日本の家族25年変化」(2013.9) 博報堂生活総合研究所

■ 配偶者の親(近居)との付き合い※



2 節約したい時間、充実させたい時間

「いまだき夫婦」の時間についての意識は、性別や妻の就業形態により多少の違いはあるものの、通勤時間や家事時間などで拘束される時間を短縮し、家族と過ごしたり、一人でのんびりと過ごす「ゆとり時間」を充実させたいという思いが強いのは共通のようです。特に、「ゆとり時間」を確保しにくい共働き家族にとっては、家事時間を短縮できるような「住まい」は魅力的なのではないでしょうか。

時間

節約したいのは勤務時間、充実させたいは「ゆとり」時間

旭化成ホームズの2013年の調査から、「節約したい時間」をみると、女性は就業形態を問わず「夕食作り・後片付け等の時間」「掃除時間」「洗濯時間」「朝食づくり・後片付け等の時間」など家事に関連した時間を挙げており、家事時間の短縮が求められているといえます。

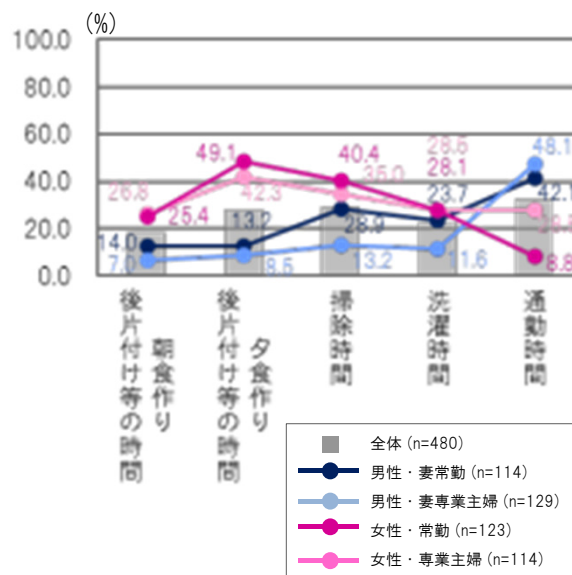
また男性は、妻の就業形態を問わず「通勤時間」との回答が飛びぬけて多くなっています。なお、共働き家族の夫は、家事に関与することが多いことが予想され「掃除時間」「洗濯時間」もあげているのが特徴的といえます。

「充実させたい時間」は、妻の就業形態や男女を問わず「家族のだんらん時間」「睡眠時間」を求める人が多くなっています。

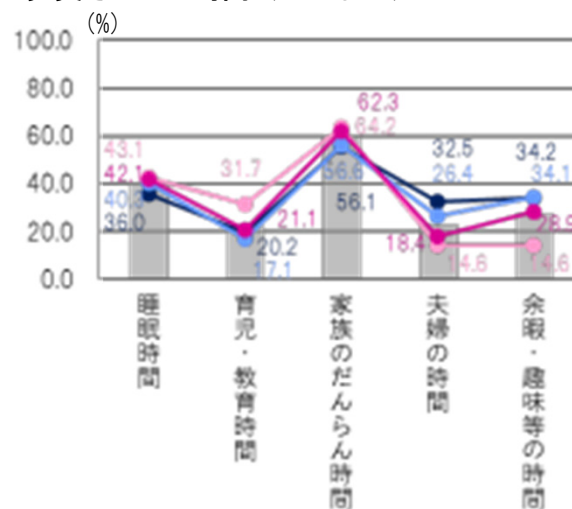
「育児・教育時間」はフルタイムで働く妻が特に求めており、これは普段十分に子どもと接する時間がとれていないという思いの現れと考えられます。

「夫婦の時間」を充実させたい思いが最も強いのは、フルタイム共働き家族の夫となっています。自身がフルタイムで働いている限り、夫婦の時間はとりづらいと思われますが、妻がフルタイムの場合、日常生活全般が忙しく、より一層夫婦の時間もとりにくいのが現実なのでしょう。そういった意味でも、家事時間を短縮して「ゆとり」の時間を生み出すことが、今、より一層求められているといえるでしょう。

■節約したい時間（3つまで）※



■充実させたい時間（3つまで）※



※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：
2013年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

妻は自分の「プライベート時間」も大事

博報堂総合研究所の調査では「今一番充実させたい時間」を1988年と2008年で比較しています。

「夫婦一緒の時間」を充実させたいとの回答が20年間で、夫は30.6%から39.3%に上昇、妻は35.2パーセントから26.2%に下降し夫婦逆転しています。20年前は「夫婦一緒の時間」を充実させたいと考えた人の割合は夫より妻の方が多かったのに対し、2008年では、妻26.2%に対し夫39.3%と、夫が大幅に上回る結果となりました。また、妻においては、「自分のプライベートな時間」を今一番充実させたいと考えており、20年間で10.3ポイントも伸びています。



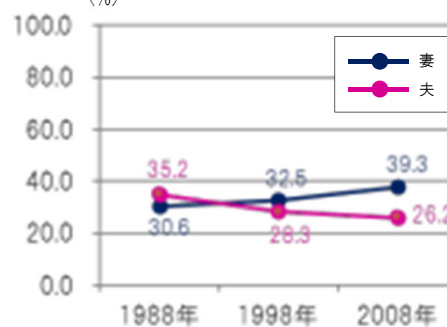
■ 充実させたい時間※

あなたが今一番充実させたい時間はどのような時間でしょうか

		1988	1998	2008	20年変化
自分のプライベートな時間	夫	57.3	54.4	46.2	-11.1
	妻	54.5	60.8	64.8	+10.3
家族一緒の時間	夫	40.3	43.8	55.7	+15.4
	妻	41.4	40.5	50.3	+8.9
夫婦一緒の時間	夫	30.6	32.5	39.3	+8.7
	妻	35.2	28.3	26.2	-9.0
子どもと一緒に時間	夫	15.9	11.7	21.0	+5.1
	妻	12.7	11.5	16.5	+3.8
親しい人と一緒に時間	夫	10.8	8.8	7.0	-3.8
	妻	17.7	22.9	20.3	+2.6
仕事の時間	夫	19.9	17.4	19.5	-0.4
	妻	5.7	5.8	5.7	0
家事の時間	夫	0.3	0.2	0.7	+0.4
	妻	7.8	3.2	5.2	-2.6
自分の親と一緒に時間	夫	2.0	1.1	2.3	+0.3
	妻	4.3	3.8	5.2	+0.9

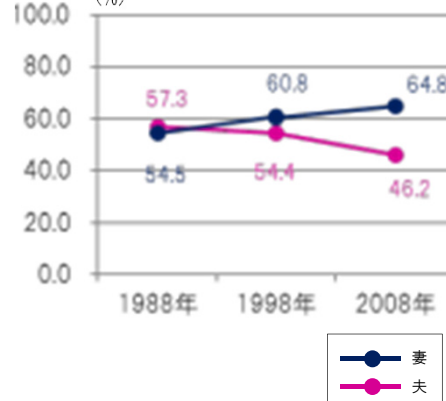
■ 夫婦一緒の時間※

(%)



■ 自分のプライベートな時間※

(%)



3 父親の家事関与と、子どものお手伝い

旭化成ホームズの調査から、父親の家事育児関与の子どもへの影響が明らかになりました。

平日の調理・洗濯・掃除に関する子どもの家事関与を夫の家事育児関与度×末子の年代別で比較したところ、父親が家事育児に参加している子ども方が、お手伝いを良くしているという傾向が見えてきました。

中でも男性に注目すれば、家事をする父の背中を見て育った息子は、お手伝いをよくすることから家事経験が豊富であり、将来的にはスゴカジパパへと成長することが期待されるのではないのでしょうか。

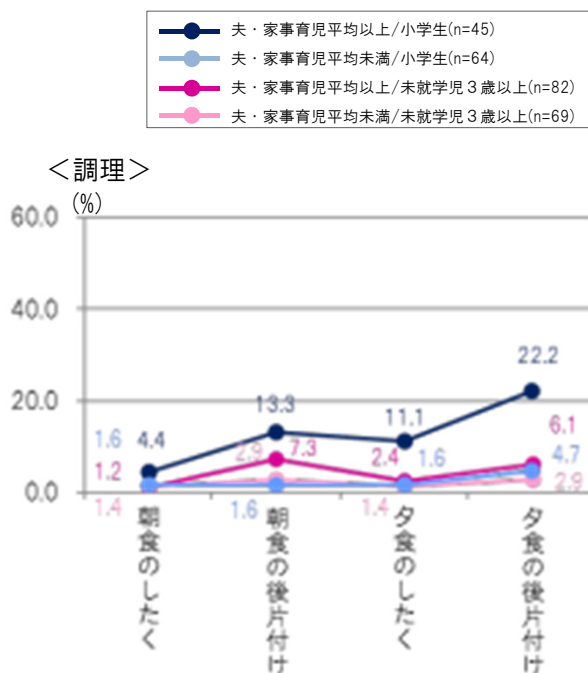
「家事する父」をもつ子は、お手伝いをよくする

<調理>については、父親の家事育児関与が平均以上の小学生のグループが全ての項目「朝食のしたく」「朝食の後片付け」「夕食のしたく」「夕食の後片付け」で、他のグループよりも家事への関与の割合が高くなっています。

中でも「夕食の後片付け」については、ほぼ5人に1人が関わっていることが注目されます。

同じ小学生でも、父親の家事育児関与が平均以上のグループと平均未満のグループを比べると10%以上の差があり、父親が家事育児に関わっている子どもほど、お手伝いをしているといえそうです。

■ 平日の家事参加※

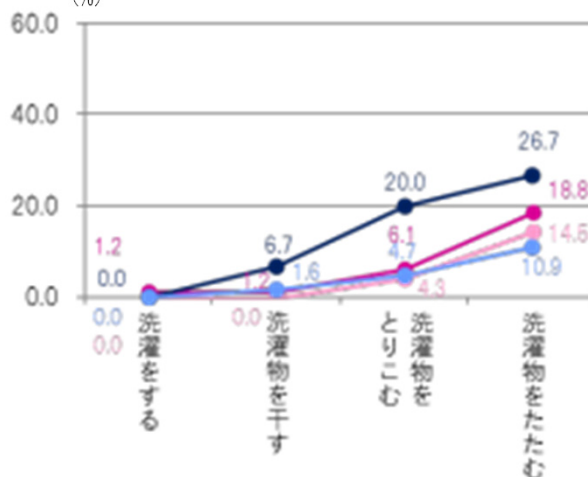


※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2012年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

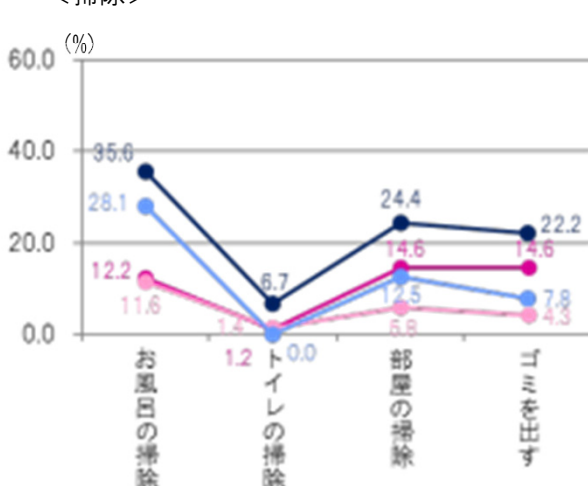
＜洗濯＞についてはすべての項目で、父親の家事育児関与が平均以上のグループの子どもの方が、平均未満のグループの子どもよりも関与する割合が高くなっています。

特に、父親の家事育児関与が平均以上の小学生では、平日にも関わらず「洗濯物を取り込む」では5人に1人、「洗濯物をたたむ」では4人に1人が、未就学児でも父親の家事育児関与が平均以上の場合、「洗濯物をたたむ」では、ほぼ5人に1人が関与しています。このことから、子どもが両親の作業の様子を見ることで自然に家事に関わるようになっていく姿が想像されます。

＜洗濯＞
(%)



＜掃除＞
(%)



＜掃除＞についても、小学生の関与状況は、父親の家事育児関与が平均以上か未満によって、かなりの違いがみられます。特に「部屋の掃除」「ゴミ出し」について、父親の家事育児関与が平均以上と平均未満の場合を比べると、それぞれ24.4%と12.5%、22.2%と7.8%と、どちらも2～3倍の違いがありました。父親の家事育児関与が平均未満の小学生は、平均以上の未就学児をも下回る結果となっています。

これらの結果からも、「家事をよくする父親の子どもはお手伝いをよくする」ということがいえるでしょう。

性別	年齢（歳）	育児や子どもとの関わりの中で、大事にしていることや喜びとなること※
女性	37	うそをつかない。悪いことをしてしまったときは、言い訳をせず、素直に謝る。人の話をきちんと聞く。あいさつや感謝の言葉は相手に伝わるように大きな声でしっかり言う。など。
男性	34	できるだけ一緒に時間を過ごす。
男性	36	本人に決めさせ責任をもたせる。きちんと説明させる。
女性	42	成長をしっかり見ていないと成長したことがわからないので、普段からできるようになったこと、服が小さくなったことなど細かく主人に言うようにしている。
女性	32	仕事を理由に子育てを妥協しない。学校の行事などはよっぽどの理由がないかぎり、夫婦で参加する。
女性	32	できなかったことができたり、指示したことができたりすると褒めてあげる。そうすると子供もうれしいようで、またやってくれたりします。
男性	32	子供がやりたいことをやらせてあげられるようにする。

※旭化成ホームズ株式会社 共働き家族研究所：2012年「子育て期共働き家族・専業主婦家族 調査」

いまどき30代夫の家事参加の実態と意識
～25年間の調査を踏まえて～

発 行 2014年7月11日
発行所 旭化成ホームズ株式会社
くらしノベーション研究所
共働き家族研究所

〒160-8345 東京都新宿区西新宿 1-24-1
エステック情報ビル
電話03-3344-7858